

右永世祿年限十分ノ五ヲ給ス

但利子ハ永世祿ノ割合ニ同シ

一年限祿ノ者ヘハ

十年以上ノ者ヘハ右永世祿年限十分ノ四ヲ給ス

(十年未滿八年以上)ノ者ヘハ右永世祿年限十分ノ三五ヲ給ス

(八年未滿六年迄)ノ者ヘハ右永世祿年限十分ノ三ヲ給ス

(六年未滿四年迄)ノ者ヘハ右永世祿年限十分ノ二五ヲ給ス

(四年未滿三年迄)ノ者ヘハ右永世祿年限十分ノ二ヲ給ス

二年ノ者ヘハ右永世祿年限十分ノ一五ヲ給ス

但利子ハ永世祿ノ割合ニ同シ

第二條 此ノ公債証書ノ利子下渡シハ明治十年分ハ十一月翌年五月ニ相渡シ以後之ニ準シ年々兩度ニ下ケ渡スコトス

▲明治十一年九月十三日第二十六號布告ヲ以テ左ノ但書ヲ追加ス

但シ利子下ケ渡シ混浴セサル爲メ毎年四月一日ヨリ五月二十八日マテ十月一日ヨリ十一月

廿八日迄ハ証書ノ讓渡シ賣買等ノ届出(圈點ヲ施ス三字ハ明治十二年七月五日第廿六號布

告ヲ以テ追加シタルモノニ係ル)ヲ見合ス可シ

第三條 家祿賞典祿元高ヲ附與スル年限ニヨリテ利子ノ差異ヲ生スルモ元高ニ向テ公債証書

ヲ付與スル制限左ノ如シ

鹽ヘハ

一金壹萬圓

家祿賞典祿合高

此六ケ年半分金六萬五千圓此公債証書ノ利子一ケ年五歩金三千二百五十圓ト成ル

一金九千九百圓

家祿賞典祿合高

此六ケ年七分五厘分金六萬六千八百二十五圓此ノ公債証書ノ利子一ケ年五歩金三千三百四十一圓二十五錢ト爲ル

右比較九千九百圓ノ方利子九十一圓廿五錢ノ過ト成ル然ルモハ壹萬圓ノ利子金額ニ超過セサルヲ以テ制限トナス故ニ九十一圓二十五錢ヲ引去リ利子三千二百五十圓ニ適當スル公債証書ヲ下渡シ以テ規則トス其他右ニ類似ノ件ハ皆之ニ準ス

第四條 此公債証書ハ利子ノ差ヨリ區別アリト云モ其發行スル種類ハ左ノ如シ

五圓	十圓	二十五圓	五十圓	百圓
三百圓	五百圓	千圓	五千圓	

第五條 前條公債証書ヲ付與スルモ當リテハ公債証書ニ未滿ノ端金ハ總テ通貨ニテ相渡ス

ヘシ

第六條 此公債証書ノ元金ハ五ケ年間之ヲ据置キ六ケ年目ヨリ大藏省ノ都合ニ因リ毎年抽籤ノ方法ヲ以テ之ヲ消却シ都合三十ケ年間ニ悉皆之ヲ消却ス可シ

第七條 此公債証書發行ニ付テノ順序其外トモ此條例外ノ事件ハ都テ新舊公債証書發行條例ノ通りタルコト心得可シ

○金祿公債証書發行條例

○明治十一年四月三十日第七号布告

今般全國中公益ノ事業ヲ興シ物産繁殖ノ道ヲ開キ内外ノ商賈ヲ盛ニスル爲メ額ヲ壹千貳百五十萬圓ノ内國債ヲ起シ其費用ニ供スヘキニ被決定有募債方一切大藏卿へ御委任相成候條此旨布告候事

但シ詳細之儀ハ大藏卿ヨリ可及布達候事

○明治十一年五月一日大藏省中第十三号布達

今般内國債募集ノ儀ニ付キ本年(四月)太政官第七号布告ノ旨趣ニ因リ起業公債証書發行條例別冊ノ通り相ヒ定メ施行セシメ候條此旨布達候事
起業公債証書發行條例

此公債ハ明治十一年(四月)太政官第七号布告ノ旨趣ニ基ツキ要用ノ金額ヲ募集スル爲メ起ス所ニシテ是ヲ大日本政府ノ公債トシテ各債主ヘハ此公債証書ヲ交付シ年限ヲ定メテ之ヲ償却スルニ付大藏省ニ於テ制定シタル條々左ノ如シ

第一條 (公債証書ノ元高種類並ニ利息ノ制限ヲ示ス)
第一節 此公債ノ元高ハ壹千貳百五十萬圓ニシテ年六分(百分ノ六)ノ利付トシ其元金ハ二箇年間据置キ三ケ年目(即チ明治十三年)ヨリ向二十三ケ年ヲ限リ(即チ明治三十五年迄)毎年大藏省ノ都合ヲ以テ(第四條ニ掲グル)抽籤ノ方法ヲ用ヒ之ヲ拂戻スヘシ而シテ其利息ハ(第三條第二節ノ但書并ニ第四節ノ分ヲ除キ)募金拂込ニ皆濟ノ後ヨリ明治三十五年迄毎年六月十二月ノ兩度ニ之ヲ拂渡スヘシ(本文金額ハ總テ大藏省ノ都合ニ依リ金銀貨又ハ紙幣ヲ以テ之ヲ下渡スヘシ)

但シ明治十三年ヨリ抽籤法ヲ以テ元金ヲ拂戻スル當テハ年六分ノ利息月割(抽籤十五日以前ニ係ルハ前月迄ノ分十六日以後ニ係ルハ半ケ月分下渡スヘキモノトス)ヲ以テ右抽籤法ヲ行ヒシキ迄ノ分下渡スヘシ
第二節 此公債証書面ノ金高ハ五百圓、百圓、五十圓ノ三種ニ區別シ利息ノ小札付キトス但シ本文ノ利札ハ每半年利息渡ノキニ其渡方ヲ取扱フ銀行等ニテ切り取り引換ニ其金額ヲ得ヘキモノトス

第二條 (公債証書授受賣買等ノヲ示ス)
第一節 此公債証書ハ(第六條ニ掲グル)記名ニ變改スルヲ除キ(所有主ノ名ヲ記サス故ニ書換又ハ管應ノ捺印ヲ受クル等ノ手數ナクシテ授受賣買等(外國人ヲ除クノ外)各自ノ隨意ニ行ハシメ
但シ質入書人(外國人ヲ除キ)及ヒ相續人ヘノ遺物モ勝手タルヘシ

第三條 (募債並ニ出金等ノ手續概略ヲ示ス)
第一節 此公債ノ募集方並ニ元利金ノ渡方トモ都テ第一國立銀行並ニ三井銀行へ委任シテ取扱ハシムルカ故ニ申込ノ手續引受ノ實高期限場所及ヒ利息並ニ元金ノ渡方其他必要ノ件々ハ右兩銀行本店若シハ支店及ヒ其取引仲間等ヨリ追テ新聞紙等ヲ以テ廣告ニ及フ可シ
第二節 募リニ應シ出金スルノ時期ハ都合四度ト定メ最初引受方申込ノ節手付金ヲ拂込マシメ其後ハ第一第二第三ト割合ヲ以テ順次ニ出金セシムルモノトシ其時日ハ右兩銀行等ヨリ

○起業公債証書發行條例

廣告ス可

但シ〔明治十一年七月四日大藏省甲第二十三號布達ヲ以テ但書左之通改正ス〕

但第三割拂マテノ利息ハ其出金高ニ準シ年六分ノ割合ナル月割ヲ以テ之ヲ拂渡ス可
第三節 右四度ノ内手附金拂込ノ節ハ該銀行ノ受取書ヲ與ヘ第一割拂ノ拂込ニハ右受取書ト引換ニ假証券ヲ與ヘ第二割拂ニハ新假証券ヲ以テ舊假証券ト取換ヘ第三割拂ノ拂込ニ至リ此公債証券ヲ假証券ト引換ニ交付ス可

但シ公債証券ノ種類ハ大藏省ノ都合ニ依リ之レヲ交付ス可

第四節 (明治十一年七月四日大藏省甲第二十三號布達ヲ以テ第二節但書ノ割註「拂込十五日云々」ノ四十字ヲ移シテ本節「月割」ノ下ニ挿入ス)

手付金又ハ第一第二第三割拂ノ拂込金トモ都テ其定期ノ時日ニ先ツテ入金スル者ハ其高ニ對シ年六分ノ割合ナル利息月割(「拂込十五日以前ニ係ルハ半ケ月分十六日以後ニ係ルハ翌月ノ分ニ立テ」計算スルモノトス)ヲ以テ入金ノ内ヨリ割引シテ債主ヘ拂渡ス可

第五節 右ノ如ク四度ニ配賦シテ拂込マシムルニ付テハ若シ初度ノ手付金相濟ニ更ニ第一割拂若シハ第二第三割拂出金ノ定期ヲ愆マツ者ハ其以前差出シタル金額ハ當人ノ損失ニ歸セシメテ返與セサルヘシ

第六節 出金未ク皆済ニ至ラス此公債証券ヲ受取ラサル以前タリトモ常人ノ都合ニ依リ第一割拂ヨリ交付シタル假証券ヲ授受買賣入ニスルハ(外國人ヲ除クノ外)勝手タルヘシ尤モ授受買賣ノ節ハ其証券ノ裏面ニ讓渡人(又ハ賣主)ノ姓名住所ト讓受人(又ハ買主)ノ姓名住所ト記載シ且ツ調印スルモノトス

但シ此讓受人(又ハ買主)ニテ其次ノ割拂出金ヲ愆期スルキハ本條第五節ノ通タル可シ
第七節 若シ申込ノ出金高募集ス可キ見込高ヨリ超過スルキハ該銀行ニテ之レヲ總体ノ申込高ニ割付ケテ平等ニ減却シ而シテ其手付金ノ過剩トナル分ハ第一割拂ノ拂込金ニ廻スヘシ尤モ其時ノ都合ニ依テハ別ニ適宜ノ方法ヲ設ケテ之ヲ減却スルコトモアルヘシ

第四條 (抽籤ノ手續概要ヲ示ス)
第一節 毎年抽籤ヲ以テ此公債ノ拂戻シヲ定ムルニハ此公債ヲ取扱フ銀行本店ニ於テ其年ノ十月中該地方身柄ノ人ニテ此公債証券(無記名記名トモ)ヲ所持スル者五人以上ヲ撰ミ大藏省國債局ノ官員ト其地方廳ノ官員各兩名以上立會ノ上抽籤ヲ以テ其年ニ拂戻スヘキ証券ノ記號番號ヲ公定シ中リ籤ノ記號番號ハ速ニ新聞紙等ヲ以テ廣告スヘシ

第五條 (証券ノ毀損紛失盜難流焼失等ノ心得方ヲ示ス)(圖點ヲ付ス七字ハ明治十一年七月四日大藏省甲第二十三號布達ヲ以テ追加セラレタルモノニ係ル)

第一節 此公債証券ハ自然垢付或ハ少々ノ損等アルトモ金高及ヒ主要ノ印部等ニ損害ナシ正眞ノ証券タルヲ保證スヘキ分ハ當然ノ規則ニ隨ヒ元利金ノ渡方ヲ爲ス可シ尤モ過失ニテ此公債証券ノ一部分ヲ燒損シ又ハ金高及ヒ主要ノ印部等ヲ毀損シ或ハ之ヲ見認メ難キ程ノ墨附等アレハ速ニ其手續書ヲ添ヘテ兩銀行ノ本店又ハ大坂ニ在ル支店ニ持參シテ引換ヲ乞フヘシ兩銀行ハ其事實ヲ承明シテ後チ之ヲ大藏省ヘ具申シテ此引換ヲ爲スヘシ尤モ大藏省ニ於テハ其事實ハ勿論該證書面ニ金高番記號ノ部分必ス判然存在シ眞正ノ証券ニ相違ナシト

○起業公債証券發行條例

見認ムル分ハ引換ヲ爲スヘシ

但シ此引換ヲ乞フコトハ本人ヨリ相當ノ手数料ヲ銀行ヘ拂フヘシ

▲明治十一年七月四日大藏省甲第二十三號布達ヲ以テ左ノ通第二節及ヒ第三節ヲ追加ス

第二節 此公債證書紛失盜難又ハ流焼失ニ罹ル分ハ所有主コ於テ其事實ヲ審明シ證書ノ記號

番號金高枚數及ヒ所有トナリシモノ手續等詳細相認メ地方管廳ヲ經テ大藏省ヘ届出置キ償

却年限ノ末期ニ至ル迄該證書終ニ顯出致サス全ク消滅セシニ相違ナキコ於テハ該證書ニ對

シテ積リタル利息元金トモ一同ニ之レヲ拂渡スヘシ

第三節 前節届出ノ後該證書顯出レ而シテ未ク犯罪人ノ手ニ在ルカ或ハ犯罪ノ情ヲ知り轉

受セシモノカ或ハ情ヲ知ラストモ恩惠(貨幣又ハ物品ヲ渡サスシテ受取ルノ類)ノ讓與ニ係

ルモノハ原所有主ニ於テ之ヲ取戻スコト得ヘシ

但シ前二節ノ場合ニ於テ事實判明致シ難キキハ都テ法官ノ裁決ニ付シ相當ノ處分ニ及フ

コトアルヘシ

第六條 (記名公債証書ニ變改スル手續並ニ變改セシ以後ノ規則ヲ示ス)

第一節 此公債證書ハ授受買賣等ヲ便ニスル爲メ本來無記名ナレド所有主ノ請願ニ依リテハ

之ヲ變改シテ更ニ記名計書ト爲スコト得ヘシ其變改ノ手續並ニ規則等ハ左ノ如シ

第二節 無記名證書ノ記名ニ變改スルニハ證書ヲ引換ユルニ非ラス又證書本紙ニ記名スルニ

非ラスシテ本條第四節ノ取扱ヲ以テ之ヲ定ムルモノトス

第三節 右記名ニ請願スルモノハ第三條最後出金ノ定期ヨリ七八十日乃至五六十日以前ニ其旨

ヲ此公債ヲ取扱フ兩銀行ノ本支店若クハ取引仲間等ニ申込ムヘシ右銀行ハ(支店並ニ取引

仲間等ニ申込ミタル分ハ之ヲ取纏メ)請願人ノ姓名住所並ニ入用證書ノ金高等ヲ詳記シ大

藏省ヘ具申シ記名極印濟シノ證書ヲ(記名紙相添ヘ)受取り之ヲ其本人ヘ交付シ本人ヨリ更

ニ之ヲ管廳ヘ持出テ記名其他次節ノ手續ヲ受クヘシ

第四節 前節ノ如ク大藏省ヘ具申ノ上ハ同省ニ於テ該證書ニ記名シタル極印ヲ押シ之ヲ簿冊

ニ登記シ置キ再ヒ之ヲ其銀行ニ送付シテ其本人ヘ交付シ本人ヨリ管廳ヘ持出ルモノトス管

廳ニ於テハ該證書ノ種類金高記號番號枚數及ヒ所有主ノ姓名住所年月日等ヲ簿冊ニ登記シ

該證書ニ記名紙ヲ糊付シ該廳ノ繼印ヲ爲シ所有主ノ姓名住所ヲ記入シ該廳ノ割印及ヒ公債

掛ノ檢印ヲ捺シテ再ヒ之ヲ所有主ヘ付與ス可シ

但シ一旦無記名證書ヲ引受ケ置キ追テ記名ニ改メント欲スル者ハ該證書ニ其種類金高記

號番號枚數ノ自録書及ヒ願書ヲ添ヘ管廳ヘ申立ツヘシ管廳ヨリハ願人ヘ證書ノ受取書ヲ

渡シ置キ之ヲ大藏省ヘ具申シテ極印濟シノ證書並ニ記名紙ヲ受取り成規ノ如ク再ヒ之ヲ

其本人ヘ付與スルノ手續ヲ爲スモノトス尤モ記名紙ハ地方官ノ見込ヲ以テ豫メ之ヲ大藏

省ヨリ受取り置クモ適宜タルヘシ

第五節 前節ノ如ク無記名証書ヲ記名証書ニ變改シタル上ハ之ヲ授受買賣シ或ハ引當物ニ爲

シ又ハ紛失盜難及ヒ流失等ノ虞ハ明治八年(五月)太政官第九十五号布告改正新舊公債証書

發行條例第六條第七條第八條第九條第十條ヲ適用スヘシ尤モ右條例ヲ此記名公債証書ニ適

用スル場合ニ於テハ右條例中換用ノ文字並ニ不用ノ廉々左ノ如シ

○起業公債証書發行條例

但元利金渡方等ノ手續ハ無記名公債証書ト同様ナルモノトス
右條例第六條ヨリ第十條迄ノ中ニ「新舊公債証書共」並ニ「新舊公債証書」トアルハ都テ「此記名公債証書」ト改ム

同第六條第一節但書ノ「其都度大藏省へ届出可シ」ヲ「置ク可シ」ニ改ム

同條第二節ニ「証書裏面へ形ノ通リ（裏面離形）」及ヒ同條第三節ノ「証書裏面へ形ノ如ク（裏面離形）」ハ都テ「記名紙へ末ニ附スル離形ノ通リ」ト改ム

同條第三節ノ「大藏省へハ云々」ノ十五字ヲ「置クヘシ」ニ改ム

同條第四節ノ但書ヲ削除ス

同條第五節並ニ第七節第八節ノ「証書へ割印」ハ都テ「記名紙へ割印」ニ改ム

同條第七節ノ「且大藏省へハ一月分翌月五日迄ニ云々」ノ二十七字ハ不用
同條第九節ノ「就テハ年々元利金云々」ノ十八字ヲ「尤モ年々元利金拂方ハ此公債ヲ取扱フ銀行等ニテ拂渡スヘシ」ニ改ム

同條第十節ノ「年々元利拂及」ノ六字并ニ「年々元利受取或ハ」ト兩所ニ在ル都合十六字及ヒ第十二節ヲ削除ス

同條同節中ノ「前條」ヲ「第七節」ニ改ム
同條第七節第一節ノ「其所持人へ下渡スヘシ云々」ノ四十七字ヲ「何人ヲリトモ其持參人へ外國人ヲ除ク外」相渡スヘシ」ニ改ム

同第八條割註二十一字ヲ「此公債証書記名紙離形ノ手續ヲ明コス」ニ改ム

同條第一節ノ「裏面記名ノ場所」ヲ「記名紙ノ離形」ニ改ム
同條第一節ノ「記名紙ノ離形」ヲ「記名紙ノ離形」ニ改ム

同第九條第一節ノ但書ヲ削除ス

同條第二節ノ「地方官廳」ヲ「即右ノ旨」云々」ノ六十三字ヲ削除ス

同條第三節ノ「公布」ヲ「布達」ニ改ム
同條第四節ノ「元利」ヲ「利金」ニ改ム

第七條（証書製造等ノ處分ヲ示ス）
第一節 此公債証書（無記名記名トモ）ヲ私ニ剝去リ又ハ切裂キ又ハ塗抹シ孔ヲ穿テ糊附シタル等ノ事ヲ爲カヘカラス若シ犯ス者アレハ裁判ノ上其金高十倍以下ノ罰金ヲ命スヘシ

第二節 此証書ヲ製造シ又ハ人ヲシテ製造セシメ又ハ人ノ製造スルヲ助ケ又ハ製造ト知リテ通用シ又ハ証書ノ圖書文字ヲ變換シ又ハ人ヲシテ變換セシメ又ハ變換セシモノト知テ之ヲ通用シ其他似寄ノ板版紙品等ヲ所持スル者ハ都テ裁判ノ上法ニ處スヘシ

第八條
第一節 政府ノ都合ニ依リ要用ノコトアレハ利息及ヒ償却年限ヲ除ク外此條例ヲ增補シ又ハ改正スヘシ
第二節 右增補改正等アルハ速ニ其旨趣ヲ公告スヘシ

明治十一年五月
○明治九年二月十九日第拾七号布告

○度量衡改定規則

度量衡改定規則

丁廿八

- 第一條 三器改定ニ付キ各地方ニ三器製作所并ニ賣捌所ヲ設ケ製作所ニ於テ製作セル新器來ル三月十五日ヨリ賣捌所ニ於テ發賣爲致從前ノ枰座秤座ハ同日ヨリ廢止候事
 - 第二條 各地方ニ舊器改所ヲ設ケ候條從前所持ノ三器來ル三月十五日ヨリ十二月二十五日マテニ右改所へ差出シ檢査ヲ請フ可シ右期日ヲ過キ檢印ヲキ器ヲ商業上ニ用フルヲ禁ス時宜ニヨリ掛リ官吏商家ニ入り用器ヲ視察スヘキ事
 - 但シ改所ニ於テ檢査ノ上新器ニ適合セル分ハ檢印ヲ廢スヘキ分ハ廢ノ字ヲ印シ總テ所持人ニ下ケ戻スヘシ
 - 第三條 製作所賣捌所官許ノ外三器製作賣捌一切不相成事
 - 但シ尺ハ尺杖等一時使用ノ爲メ目盛致シ枰ハ芋烏芋等ヲ量ル爲メ箱ヲ製シ又ハ賣買スルハ苦シカラス
 - 第四條 尺度秤量ノ目ヲ盛直シ枰ノ線鉄弦鉄ヲ打替ヘ斗概ヲ修覆スル等ハ必ス製作所へ差出スヘシ秤量ノ緒紐ヲ附替フルハ製作所又ハ賣捌所ニ差出スヘシ其他ノ人自儘ニ致シ候條不相成事
 - 第五條 舊新器共檢印アルヲ賣捌度者ハ必ス賣捌所ニ可申出事
 - 但シ秤ノ錘皿又ハ枰ノ線鉄弦鐵等ヲ取離シ古鉄トシテ賣買スルハ苦シカラス
 - 第六條 第二條以下ノ禁令ヲ犯ス者ハ其品取上ケ律ニ照ラシテ處斷スヘキ事
- ▲明治十四年五月廿六日第三十二号布告

西洋形權衡製作檢査印章左ノ通改定候條自今左ノ印章ヲ証トシ從前ノ權衡ト同様相用フヘシ
此旨布告候事 (檢査印章畧ス)

牛馬賣買規則

○明治五年十一月四日第三百三十号布告

牛馬賣買渡世之者免許稅ノ儀昨辛未十二月中大藏省ヨリ相違候處今般別紙規則書ノ通相定候條各管内共區々ノ取計無之様可致候事

別紙

牛馬賣買渡世之者免許稅ノ儀昨辛未十二月相違候處此度御詮議之次第モ有之別紙ノ通規則相定候條是迄相渡候免許鑑札ハ引換相渡シ引上ケ候分ハ各府縣廳ニ於テ取纏メ燒捨其段可申立候條餘ハ規則ニ隨ヒ所置可致候事

大藏省

壬申十月

規則

- 第一條 各管轄所ニ於テ其管下牛馬賣買渡世ノ者取調牛馬壹鼻綱ニ付免許鑑札壹枚相渡可申事
- 但シ壹鼻綱ハ牛馬共七匹ニ限リ鑑札壹枚ヲ所持スル者旅行ノ時ハ七匹以内ニ枚ヲ所持スル者ハ十四匹ニ限ル可シ其餘准之可申事
- 第二條 (明治七年四月二十日第四十五号布告ヲ以テ左ノ通り改正ス)
- 一 免許鑑札新規則受候者六月以前ハ全年分七月以後ハ半年分納稅シ廢業ノ者七月以後ハ全

○牛馬賣買規則

丁廿九

年分六月以前ハ半年分納稅可致事

第三條 免許鑑札萬一燒失流失盜難等ニテ失ヒ候モノ有之其段申出候ハ、事實取調鑑札相渡可申事

第四條 免許鑑札壹枚ニ付一ケ年稅金一圓上納可致事

▲明治八年七月七日第百十五号布告ヲ以テ但書左ノ通り改正ス

但シ有稅金ハ毎年二月八月兩度ニ半額宛各管廳へ取立租稅察へ上納可致尤モ新規免許ノ者ハ其都度半額直ニ取立上納可致事

第五條 免許鑑札燒印並ニ押切判ハ縦形ノ通り其管轄所ニテ製造致シ各隊人共へ相渡可申事

但シ鑑札相渡次第隊人共國郡町村名及ヒ名面詳細取調有鑑札印鑑相添へ當省へ可差出事

第六條 右様取締相立候上ハ向後無鑑札ニテ賣買不相成萬一無鑑札ニテ密々賣買候者有之相顯ルコ於テハ牛馬共取上免許稅十倍ノ科料可申付事

但シ密賣買候者他ヨリ見出シ訴出ルコ於テハ其訴主へ取上ケ牛馬拂代金ノ十分ノ二褒美

トシテ被下候事

第七條 取上牛馬拂代並ニ科料金等ノ儀ハ第四條但書ニ照準上納可致事

第八條 此規則施行候ニ付諸入費ハ一ケ年試驗ノ上可申立事

▲明治七年十二月三日第百三十一號布告ヲ以テ左ノ通り第九條ヲ追加ス

第九條 一免許鑑札ハ貸借決テ不相成候事

但免許鑑札借受ケ賣買スル者ハ規則第六條密賣買ノ條ニ照ラシ處分可致貸渡候者ハ免許

稅五倍ノ科料可申付事

富籤賣買ノ牙保幫助ヲ爲シ及富籤ヲ購買シタル者處分方

○明治十五年五月廿四日第二十五號布告

明治元年十二月二十三日ノ布告ニ原ツキ富籤賣買ノ牙保幫助ヲ爲シ及ヒ富籤ヲ購買シタル者處分方左ノ通制定ス

第一條 凡ソ富籤賣買ノ牙保若クハ幫助ヲ爲シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二條 凡ソ富籤ヲ購買シタル者ハ其價ヲ拂ヒタルト未ダ拂ハサルト相問ハス二十日以上四月以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス他人ノ名ヲ借リテ購買シタル者及ヒ他人ヨリ譲リ受ケタル者亦同シ

第三條 第一條第二條ノ罪ヲ再犯シタル者ハ同條ニ定メタル刑期金額ノ二倍ニ處ス但シ初犯ニ科シタル刑期金額ニ下ルコト得ス

第四條 富籤ニ關スル犯罪ヲ告發シタル者ニハ其徵スル所ノ罰金ノ半額ヲ給與ス

第五條 富籤ニ關スル罪ヲ犯シ事未ダ發覺セサル前ニ於テ官ニ自首シタル者ハ其罪ヲ免ス再犯ニ係ル者ハ自首スト雖モ其罪ヲ免セス

第六條 富籤ニ關スル犯罪ニ因テ得タル財物ハ之ヲ沒收ス

自首ニ因テ罪ヲ免シタル者ト雖モ財物沒收ハ仍ホ前項ニ依ル

治安裁判所及ヒ始審裁判所ノ權限ハ左ノ通り制定ス

○裁判所權限 ○裁判所取締規則

第一條 治安裁判所ハ訴訟事件ヲ勸解ス但諸官廳ニ對スル事件及ヒ商事ニ係リ急速ヲ要スル

事件ハ勸解スルノ限ニアラヌ

第二條 治安裁判所ハ請求ノ金額及ヒ價額百圓未滿ノ訴訟ニ付キ始審ノ裁判ヲ爲ス

第三條 治安裁判所ハ人事其他金額ニ見積ルヘカラサルモノヲ裁判スルヲ得ス

第四條 始審裁判所ハ請求ノ金額及ヒ價額百圓以上并ニ第三條ニ掲ケタル治安裁判所權外ノ

訴訟ニ付キ始審ノ裁判ヲ爲ス

第五條 始審裁判所ハ其管轄地内ノ治安裁判所ノ始審裁判ニ對スル控訴ニ付キ終審ノ裁判ヲ

爲ス但控訴ノ手續ハ明治十年第十九號布告控訴手續ニ照準スヘシ

○明治七年五月廿日司法省甲第九號達

裁判所取締規則

第一條 訴訟ハ訴訟口詰必ス出席シ詞訟人ヲ順次ニ呼込ニ裁判官ノ命ニ從ヒ失敬又ハ紛鬧ノ

ヲアラサル様其取締ヲ爲スヘキ事

第二條 原被告人ヲ始メ代官人等總テ訴訟ニ出ル者ハ呼込ノ次第ニ從ヒ沈黙整列シ裁判官出

席スレハ各々起テ禮ヲ爲スヘシ

第三條 原被告等共其事情ヲ餘蘊ナク幾回モ詳細ニ陳述スヘシト雖モ互ニ先ツ發言スル者ノ言

終リクハ後ニ非レハ更ニ其言ヲ發スヘカラス

第四條 凡ソ進退動作ハ輕躁ニ涉ラス言語ハ憤怒高激ニ涉ラス諄々トシテ其事情ヲ陳述シ且

裁判官ニ對シテ尊敬ヲ致スニ注意スヘシ

第五條 (明治七年十月八日司法省甲第十九號達ヲ以テ左ノ通り改正ス第六條以下モ亦同シ)

前條ニ記載シタルヲ守ラス裁判官ニ對シテ尊敬ヲ欠ク者アルハ裁判官直チニ譴責ヲ加

フヘシ

但(明治九年四月十日司法省第四十號達ヲ以テ代官人ノ條ヲ廢止ス故ニ零ス)

第六條 譴責ヲ加フヘキモノアルハ其裁判ヲ中止シ犯則ニ關係ナキ者ハ一旦扣所ニ退カシ

メ然ル後犯則ノ者ヲ譴責スヘシ

第七條 裁判官ヲ罵ルモノアルハ前條ノ如ク其裁判ヲ中止シ之ヲ斷獄課ニ付シ本律ヲ科ス

ヘキ事

但(第五條但書ニ同シ故ニ略ス)

第八條 裁判ノ時公聽ヲ許サレタル者ハ人々皆沈黙敬聽スヘシ

但裁判官審問ノ際公聽ノ者若シ紛鬧ニシテ審問ノ妨礙アリト思量スルハ便宜ヲ以テ訴

訟口詰ニ命シ公聽ノ者ヲ退カシムヘシ

○明治十五年五月五日司法省丙第十九號達

警視廳府縣

内訓條例別紙ノ通大審院諸裁判所へ相達置候處其(廳府)ニ於テモ法律上ノ疑義ニ付テハ該

達ニ照依シ内訓ヲ請フヲ得ヘシ此旨相達候事

大審院長諸裁判所長各檢事

今般内訓條例別紙ノ通り相定候條此旨及内達候事

内訓條例

○内訓條例

第一條 凡内訓條例ハ司法卿ト各裁判所(裁判官檢事)トノ間ニ於テ用ユル所ノ内規ニシテ專
ラ情實疎通事理伸暢ノ爲メニ設クルモノナリ故ニ此條例ニ從フモノハ尋常同指令ノ効力ア
ラサルモノトス

但同指令ハ各其職務ノ權限ニヨリ發令スルモノナリ該條例ハ職權ニ不拘唯其注意ヲ要ス
ル爲ニ發スルモノナルニヨリ必シモ準據セサルヘカラサルノ効力アラストス

第二條 凡民刑上疑問疑獄且裁判百般ノ事情其注意ヲ要スルモノハ總テ此條例ニ從フヘシ

第三條 凡此條例ニ從テ裁判官ヨリ司法卿ニ請フモノハ末文内訓ヲ請フト書シ尋常同文ニ殊
別スヘシ

第四條 凡此條例ニ從テ司法卿ヨリ各裁判所ヘ致スモノハ末文内訓ニ及フト書シ尋常ノ指令
ニ殊別ス

第五條 凡裁判所ニ於テ尋常ノ同トシテ出スモノト雖モ司法卿ニ於テ内訓トナスヘシ見込
キハ末文内訓ニ及トナシ又内訓ヲ請フトシテ出スモ指令トナスヘシト見込キハ末文指令ニ
及トナシ還付ス必ラスシモ原文ヲ改作セシムルヲ要セス簡便ニ從フヲ以テ旨トスレハナリ

第六條 内訓ハ指令ノ効力ナシト雖モ其從フヘカラサルモノハ其事理ヲ詳悉シ再ヒ之ヲ請ヒ
反覆數回妨ケナキテ以テ其定ムル所ヲ待ツヘシ亦事理申暢ノ意ナリ

行旅死亡人取扱規則左ノ通制定ス

行旅死亡人取扱規則

第一條 凡ソ引取人ナキ行旅死亡人アルキ所在戸長ハ之ヲ最寄墓地ヘ假埋葬スヘシ

其例死變死等ニ係ル者ハ警察官ノ檢視ヲ受クヘシ

第二條 死亡人ノ本籍氏名詳ナルキ戸長ハ死亡ノ狀況並ニ埋葬其他死亡人ニ屬スル費用ノ計
算書ヲ本籍戸長ヘ通報スヘシ本籍戸長ハ之ヲ其家ニ通示シ費用ノ辨償ヲ要スルキハ三十日
限差出サシメ埋葬地戸長ニ送付スヘシ若シ其家赤貧ニシテ辨償シ能ハサルキハ其本籍地方
稅ヲ以テ之ヲ支辨スヘシ

第三條 死亡人ノ本籍氏名詳ナラサルキ戸長ハ其相貌狀附屬シタル物品場所年月日等ヲ詳
記シ三十日間最寄揭示場ヘ揭示シ且兩度以上新聞紙ヲ以テ公告スヘシ公告ノ日ヨリ九十日
ヲ過キ仍ホ本籍詳ナラサルキハ該費用ハ地方稅ヲ以テ支辨スヘシ

第四條 死亡人所持ノ金錢ハ埋葬其他死亡人ニ屬スル費用ニ供スヘシ又所持ノ物品ハ前條ノ
期限ヲ過キ仍ホ本籍詳ナラサルキハ之ヲ公賣シ同上ノ費用ニ充ツヘシ
但シ本籍氏名詳ナル者其家赤貧ニシテ費用ヲ辨償スルコト能ハサルトハ直チニ其物品ヲ公
賣スルモ妨ケナシ

第五條 死亡人ノ遺財前條ノ費用ニ充テ餘贏アルキハ之ヲ本籍ヘ送付スヘシ其本籍氏名詳ナ
ラサルモノハ之ヲ五ヶ年間戸長役場ニ保管シ仍ホ本籍氏名詳ナラサルニ於テハ地方稅雜收
入ニ組入ルヘシ

○明治十四年十二月七日第六十三號布告
○明治十五年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

喪章條例

○行旅死亡人取扱規則○褒賞條例

第一條 凡ソ自己ノ危難ヲ顧ミテ人命ヲ救助セシ者又ハ德行卓絶ナル者（孝子順孫節婦義僕ノ類）又ハ公衆ノ利益ヲ興シ成績著明ナル者（疏河築隄修路墾田ノ業或ハ貧院學校設立ノ類）云フ）ヲ表彰スル爲メ左ノ三種ノ褒章ヲ定ム

紅綬褒章 右自己ノ危難ヲ顧ミス人命ヲ救助セシ者ニ賜フモノトス

綠綬褒章 右德行卓絶ナル者ニ賜フモノトス

藍綬褒章 右公衆ノ利益ヲ興シ成績著明ナル者ニ賜フモノトス

第二條 奇特ノ實行アリト雖モ褒章ヲ賜フヘキ場合ニ至ラサルモノハ褒狀ヲ與フコトアルヘシ

第三條 己ニ褒章ヲ賜ハリタルモノ再度以上同様ノ實行アリテ褒章ヲ賜フヘキハ其都度飾版一個ヲ賜與シ其章ノ綬ニ附加セシメ以テ標識トス

第四條 褒章ハ本人ニ限り終身之ヲ佩用シ及ヒ徽號トナスヲ得然レモ重罪ノ刑ニ處セラレタルハ之ヲ沒收シ其未タ授與セサル前同上ノ刑ニ處セラレタル者ハ之ヲ授與セズ

○明治八年六月廿八日第百十號布告

讒謗律別冊之通被定候條此旨布告候事

別冊

讒謗律

第一條 凡ソ事實ノ有無ヲ論セス人ノ榮譽ヲ害スヘキノ行事ヲ摘發公布スル者之ヲ讒毀トス人ノ行事ヲ舉ルコト非スノ惡名ヲ以テ人ニ加ヘ公布スル者之ヲ誹謗トス著作文書若シハ畫圖肖像ヲ用ヒ展觀シ若シハ發賣若シハ貼示シテ讒毀シ若クハ誹謗スル者ハ下ノ條例ニ從テ

罪ヲ科ス

第二條 第一條ノ所爲ヲ以テ乘輿ヲ犯スニ涉ル者ハ禁獄三月以上三年以下罰金五十圓以上千圓以下（二罰并セ科シ或ハ偏ヘコ一罰ヲ科ス以下之ニ倣ヘ）

第三條 皇族ヲ犯スニ涉ル者ハ禁獄十五日以上二年半以下罰金十五圓以上七百圓以下

第四條 官吏ノ職務ニ關シ讒毀スル者ハ禁獄十日以上二年以下罰金十圓以上五百圓以下誹謗スル者ハ禁獄五日以上一年以下罰金五圓以上三百圓以下

第五條 華士族平民ニ對スルヲ論セス讒毀スル者ハ禁獄七日以上一年半以下罰金五圓以上三百圓以下誹謗スル者ハ罰金三圓以上百圓以下

第六條 法ニ依リ檢官若クハ法官ニ向テ罪犯ヲ告發シ若クハ證スル者ハ第一條ノ例ニ倣フ其ノ故造誣告シタル者ハ誣告律ニ依ル

第七條 若シ讒毀ヲ受ルノ事刑法ニ觸ル者檢官ヨリ其事ヲ糾治スルカ若クハ讒毀スル者ヨリ檢官若クハ法官ニ告發シタル時ハ讒毀ノ罪ヲ治ムルコト中止シ以テ事案ノ決ヲ俟テ其ノ被告人罪ニ坐スル時ハ讒毀ノ罪ヲ論セス

若シ事刑法ニ觸レヌシテ單ヘコ人ノ榮譽ヲ害スル者ハ讒毀スルノ後官ニ告發スト雖モ仍ホ讒毀ノ罪ヲ治ム

第八條 凡ソ讒毀誹謗ノ第四條第五條ニ係ル者ハ被害ノ官民目ヲ告ルヲ待テ乃チ論ス法律規則中罰例ニ係ルモノ處分方

○明治十四年十二月二十八日第七十二號布告

○讒謗律○法律規則中罰例ニ係ルモノ處分方

明治十五年一月一日ヨリ刑法施行候ニ付キ法律規則中罰例ニ係ルモノハ左ノ例ニ照シテ處斷スヘシ

第一條 凡ソ懲役ハ十一日以上ヲ重禁錮ニ處シ十日以下ヲ拘留ニ處ス

第二條 凡禁獄及ヒ禁錮ハ十一日以上ヲ輕禁錮ニ處シ十日以下ヲ拘留ニ處ス

第三條 凡ソ罰金及ヒ科料ハ二圓以上ヲ罰金ニ處シ二圓未満ヲ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第四條 法ニ照シ律ニ照シ若クハ違令違式ニ照シ處斷ストアリ及ヒ咎可申付トアルハ總テ二圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第五條 法律規則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ再犯加重及ヒ數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第六條 法律規則中罰例アリト雖モ刑法ニ正條アルモノハ刑法ニ據テ處斷ス

第七條 前數條ノ罪ヲ犯シ拘留科料ニ處スルモノト雖モ輕罪裁判所ニ於テ之ヲ裁判ス

但シ始審裁判所々在ノ地ヲ除クノ外ハ治安裁判所ニ於テ之ヲ裁判スルヲ得

外國人遊歩規程

○明治三年閏十月十二日太政官達

東京在留外國人遊歩規程別紙之通ニ候條此旨相達候事

別紙

東京在留外國人遊歩ノ期程別紙圖面之通新利根川(又江戸川トモ云フ)口ヨリ北ノ方金町迄夫
ヨリ西ノ方水戸街道千住宿大橋迄夫ヨリ隅田川ヲ登リ上古谷上郷迄夫ヨリ小室村高倉村小矢

田村萩原村宮寺村三木村田中村諸村ヨリ朱引之通日野渡場迄夫ヨリ玉川口迄ヲ以テ隅トシ
右區内ハ外國人共遊歩御差許之儀ニ付勝手ニ徘徊イタスヘク就テハ彼我禮義モ異リ殊ニ彼方
貴人モ手輕ニ旅行イタシ候振合ニテ在々ノ人民未ク外國人之情態ヲモ熟知セサル故接對方ニ
於テ不都合ノ筋ハ勿論不作法等有之候テハ不相濟儀ニ付未々迄相互ニ心附兼テ御布告之趣心
得違無之様可致事

一外國人遊歩之節若途中ニオイテ休息又ハ薄暮ニオヒ止宿等相望候ハ、所役人方へ案内イ
タシ差支無之場所ニ候ハ、望通取計可遣旅籠代ノ儀ハ相對テ以請取可申事

一外國人出先ニオイテ差掛リ人足雇度旨申出候ハ、相當之賃錢請取身元相分リ居候モノ差出
候様可致事

一外國人共門塀等アル場所ハ勿論招キコアラヌヲテ人家へ猥リニ不立入等ニ候得共若シ庭構
園地等一見イタシ度旨申聞候ハ、立入不苦場所へハ案内致スヘク差支有之場所ハ相斷可申
事

一社寺ハ庶人立入拜禮致候場所迄立入候儀ハ不苦靈柩コイタシ庶人猥リニ不爲立入場所其餘
廟所墳墓又ハ境内ニ切之場所ハ相斷可申尤彼方懸望ニテ其主司ニオイテモ強テ差支無之候
ハ、臨機之取計ヲ以差許候トモ不苦事

一東京開市場之外諸村ニオイテハ外國人ト商賣取引不相成筋ニ候得共通行之節聊ノ土産物等
買得ノ儀相望候ハ、賣渡候テ不苦萬一振荷密商等ノ所業ニ及ヒ候ハ、屹度咎可申付候條若
振荷密商等見出候歟又ハ企候モノ有之ヲ承リ込候ハ、速ニ東京府又ハ其支配之役所へ可訴

○外國人遊歩規程

由其品ニ嚮褒美可被下事

丁四十

一宗門之儀前々ヨリ之御法度相守彌以堅ク可相制若異宗門之尊イタレ又ハ申勸候モノ等有之候ハ、其段早速其支配之役所へ可訴出事

一阿片烟草吸喫致候儀ハ嚴禁ニ付萬一竊ニ相用候歟又ハ所持イタレ候歟或ハ外國人ヨリ密ニ買取候モノ及見聞候ハ、前同様可訴出事

一外國人ニ對シ亂暴狼藉ニ及ヒ候テハ禮儀ヲ失ヒ候耻辱ノミナラス第一御威光ニモ相拘リ以テ外ノ事ニ付兼テ御布令モ有之今後右様心得違ノ者ハ無之等ニ候得共町村ニオイテモ兼テ手等申合セ置萬一狼藉ニ及候者有之節ハ所ノモノ打寄擲取若シ手ニ餘リ候ハ、打果シ候トモ不苦若シ取逃シ候ハ、地元町村ヨリ時刻ヲ不移其支配之役所並東京府へ口上ヲ以成トモ手分ケイタレ迅速ニ可届出候其餘詮議ノ手掛ニ可相成儀等及見聞候ハ、聊之事ニテモ不隱置是又早々可申出其品ニ寄夫々御褒美可被下事

附亂暴ヲ受候外國人ノ國名姓名等相分リ候丈ケ承糺シ可申立且當人ハ手當行届候丈ケ介抱致シ精々心附可遣萬一絶命ニ及候ハ、大切ニ守護イタレシ差圖相待可申事

右之條々急度可相守若シ後日之引合ヲ遁シカメメ及見聞候儀ヲ押懸シ追テ顯ル、ニオイテハ當人ハ勿論所役人迄モ夫々嚴重咎可申付候條心得違無之様可致自今以後毎年一度ツ、其所役人ヨリ前寄之趣小前之モノへ爲讀開無遺失様可相守モノ也

別紙圖面畧ス

▲明治八年十一月二日大政官第百八十九號達

外國人遊歩規程内ニ於テ旅籠渡世ノ者ニ限リ外國人止宿差詰候條外國人止宿セシメ候節ハ宿主ヨリ戸長又ハ扱所へ可届出若シ病氣療養ノタメ長ク止宿セシメ候節ハ日數七日毎ニ管轄廳へ届出候様可致此旨相達候事

▲明治十一年九月九日太政官第百四十號達

明治八年(十一月)第百八十九號ヲ以テ外國人遊歩規程内止宿ノ儀ニ付相達置候處自今旅籠渡世ノ者ニアラスト雖モ兼テ懇親ノ外國人ヲ招泊セシメ又ハ疾病其他止ムヲ得サル事故アリテ宿泊セシムルハ苦シカラス尤戸長又ハ扱所へ届シルハ前達ノ通可相心得此旨相達候事

▲明治十六年四月五日第十一號外務省布告

朝鮮國ニ於テ行歩規程ヲ犯シタル者ハ貳圓以上百圓以下ノ罪金ニ處ス

明治十一年五月四日第八號布告

株式取引所條例

第一章 株式取引所創立及ヒ開業ノ事

第一條 株式取引所ハ株式仲買人ノ集會シテ日本政府ノ諸公債証券書及日本政府ノ條例ヲ遵奉シテ發行シタル銀行并ニ諸會社ノ株券等ヲ取引スル所ナリ而シテ之ヲ創立セントスルモノハ其創立願書ハ其地方長官ノ與書ヲ受ケ之ヲ大藏省ヘ差出シ大藏卿ノ允許ヲ請フヘシ

第二條 此條例ヲ遵奉シテ株式取引所ヲ創立スルニハ其發起人少クモ十名以上ニシテ其資本金額ハ二十萬圓(明治十三年十二月廿三日第五十七號布告ヲ以テ二十萬圓ヲ十萬圓ト改正ス)以上タルヘシ而シテ其資本金總高ノ半數以上ニ當ル金額ヲ右發起人總員ニテ出ス可シ

第三條 大藏卿ハ此創立願書ヲ受領シテ其許可ス可キヤ否ヤヲ考案シ或ハ之ヲ許可シ或ハ之ヲ許可セサルコトアル可シ

第四條 發起人右創立許可ヲ受クルニ於テハ諸般ノ規程ヲ議定シテ創立証券書及定款申合規則各二通ヲ製シ株主一同記名調印ノ上地方長官ノ與書証印ヲ受ケ之ヲ大藏省ヘ差出ス可シ

但創立証券書及ヒ定款等ハ創立許可ヲ得タル日ヨリ遅クトモ三ヶ月間ニ差出スヘシ若シ右期限内ニ差出ササルキハ其許可ハ無効ニ屬スヘシ

第五條 右創立証券書及ヒ定款申合規則ハ左ノ主旨ニ從ヒ各取引所ノ便宜ニ依テ之ヲ制定スヘシ然レモ必ズ此條例ノ旨趣ニ抵觸スルヲ得サルヘシ

○株式取引所規則

創立証書ハ取引所ヲ創立スルコト付キ株主一同決定シタル綱領ノ條件及ヒ其責任ノ有限或ハ無限(有限責任トハ負債償却ノ義務ニ於テ該取引所ノ株券限り或ハ其株券ノ二倍等其限ルヲ云ヒ無限責任トハ株主一同相ヒ連帶シテ各自ノ資力ヲ竭クスニ至ルヲ云フ)ヲ明記シ必ス之ヲ遵守踐行ス可キ旨ヲ政府ニ對シ證スルモノナリ
定款ハ取引所ヲ創立スルコト付キ株主一同其取引所ノ便宜ヲ商量決定シテ互相確守スヘキ約束條款ヲ記載スルモノナリ

第六條 大藏卿ハ右創立証書及條款中合規則ヲ檢按シテ不都合ナシト思考スルコト於テハ之ニ中合規則ハ賣買取引ニ付キ賣主買主双方ノ間ニ於テ取引所ニ對シ確守ス可キ規程ヲ記載スルモノナリ

第六條 大藏卿ハ右創立証書及條款中合規則ヲ檢按シテ不都合ナシト思考スルコト於テハ之ニ
與書証印ヲ加ヘ免狀ト共ニ之ヲ其取引所ニ下付シテ開業ヲ許スヘシ
但爾后取引所ノ都合ニヨリ其創立証書及ヒ定款中合規則ヲ改正加除セントスルハ其時々大藏卿ノ認許ヲ受クヘシ

第七條 取引所ハ開業前ニ於テ其營業保証ノ爲メ資本金高ノ三分二以上ニ當ル現金又ハ公債証書(大藏省ヨリ指定スル價格ヲ以テ)ヲ大藏省ニ差出シ預置クヘシ
但シ開業免狀ヲ得タル後滿五ケ月ニ至リ猶ホ本文ノ手續ヲ爲サズ又ハ開業セサルコトアル

第八條 取引所ハ開業ノ日ヨリ滿五ケ年ノ間其營業ヲ保續スルヲ得ヘシ右滿期ニ至リ尙ホ營業セんと欲スルハ更ニ免狀ヲ受ク可シ
キハ其免狀ハ取消タルヘシ

第九條 取引所ニ於テ開業免狀ヲ受ケタル上ハ其免狀并ニ創立証書ノ寫ヲ添ヘ何月何日ヨリ其商業ヲ創ムヘキ旨ヲ新聞紙又ハ其他ノ方法ヲ以テ世上ニ公告ス可シ

第二章 株主並ニ株手形ノ事

第十條 各株主ヨリ入金シタル金額ハ分テ百圓以上一定ノ株式ト爲シ株手形ヲ製シ其株主ニルモノヘ之ヲ交付スヘシ

第十一條 株主ハ其取引所ノ營業時間ハ何時コトモ其金員及ヒ諸帖簿ヲ檢閱スルヲ得ヘシ
第十二條 株主ハ何等ノ事故アルトモ其取引所解散ノ期ニ至ラサル間ハ其株金ヲ取戻ス可ト得ス

第十三條 株主ハ其取引所ノ承認ヲ得タル上其所持ノ株式ヲ賣渡シ又ハ讓渡ヲ爲スヲ得ヘシ

第十四條 株主タル者ハ其取引所ノ役員ヲサレサレ時間ハ何時ニテモ仲買人タルヲ得ヘシト雖モ仲買人ト爲タルキハ仲買人ノ規則ヲ遵守ス可シ而シテ賣買上ニ於テハ之ヲ仲買人ト稱ス可シ

第三章 仲買人ノ事

第十五條 (明治十三年四月十五日第廿號布告ヲ以テ左ノ如ク改正ス)丁年ニシテ仲買人ト爲ラント欲スル者ハ次條ニ定ムル身元金ヲ差入レ取引所ノ承認ヲ得タル上仲買人ト爲ラントスル願書ヲ大藏卿ニ捧ケ其認許ヲ受クヘシ仲買人ハ他人ノ委託ヲ受ケテ賣買取引ヲ爲スト自己ノ爲メニ爲ストト問ハス取引所ニ對シテハ其賣買取引上一切ノ責任ヲ負フ可シ

○株式取引所規則

第十六條 (明治十三年四月十五日第廿號布告ヲ以テ左ノ如ク改正ス)

株式仲買人ノ身元金ハ二百圓以上金銀仲買人ノ身元金ハ千圓以上タル可シ

第十七條 仲買人ハ丁年者ニ限ル可シ且ツ一度身代限ノ處分ヲ受ケタル者ハ其負債ノ義務ヲ免レタル實証アルコトヲ示シテハ入社ヲ許サレ可シ

第四章 役員ノ事

第十八條 取引所ノ役員ト稱スル者ハ左ノ如シ

頭取 肝煎

其他支配人書記方計算方等ノ名義ヲ以テ役員ヲ定ムルハ取引所ノ便宜ニ任ス

第十九條 (明治十三年四月十五日第廿號布告ヲ以テ左ノ如ク改正ス)

取引所ノ肝煎ハ五名以上トシ株主ノ總會ニ於テ取引所ノ定規ニ從ヒ現ニ三十株以上ヲ所持スル株主中ヨリ之ヲ撰舉シ肝煎ハ其同僚中ヨリ頭取一人ヲ撰舉シ其住所姓名年齢等ヲ大藏卿ニ具申シテ其認許ヲ受クヘシ大藏卿ハ時トシテハ其改撰ヲ命スルコトアル可シ

卿ニ具申シテ其認許ヲ受クヘシ大藏卿ハ時トシテハ其改撰ヲ命スルコトアル可シ

支配人以下ノ役員ハ頭取肝煎ノ衆議ニ依リ株主又ハ株主ニアラサル者ヲ撰任スルコトヲ得

第二十條 取引所役員ノ在職年限ハ一ケ年タルヘシ

第二十一條 頭取ハ取引所ノ事務ヲ總轄シ取引所一切ノ責ニ任スヘシ

第二十二條 頭取肝煎ハ其仲買人賣買上ノ差違レヲ解キ違約者ヲ處分スルノ責任アリトス

第二十三條 取引所諸役員職務上ノ責任權限等ハ其取引所ニ於テ適當ノ規程ヲ設ケ之ヲ定款

中ニ記載ス可シ

第五章 一般ノ規程

第二十四條 外國人ヲ取引所ノ株主並仲買人ト爲スコトヲ得ス

第二十五條 取引所ニ於テ株式賣買取引ヲ爲ス者ハ其取引所ノ承認ヲ經タル仲買人ニ限ルヘシ

第二十六條 (明治十四年五月二日第廿八號布告ヲ以テ削除ス故ニ略ス)

第二十七條 取引所ノ役員タル者ハ其取引所ニ於テ賣買本人又ハ仲買人ト爲ル可ラス

第二十八條 取引所ノ役員及ヒ仲買人ハ他ノ株式取引ヲ爲ス會社ノ役員又ハ仲買人或ハ他ノ銀行並ニ諸會社(官許ヲ經タル合本會社)ノ役員タルヲ得ス

銀行並ニ諸會社(官許ヲ經タル合本會社)ノ役員タルヲ得ス

第二十九條 取引所ハ其營業ノ爲メ緊要ナル地所家屋ヲ除クノ外地所家屋ヲ所持スルヲ許サズ又之ヲ賣買ス可カラス

第三十條 政府ニ於テ賣買ヲ許シタル諸公債證書及ヒ政府ノ條例ヲ遵奉シテ發行シタル銀行並ニ諸會社ノ株券等ノ賣買ヲ除クノ外此取引所ニ於テ一切他ノ物件ヲ賣買シ他ノ事業ヲ營ムヘカラス

第三十一條 取引所ハ第一章第七條ニ掲ケタル營業保證ノ爲メ大藏省ヘ預クヘキ公債證書ヲ除クノ外自ラ諸公債證書諸株券等ヲ賣買シ又ハ之ヲ所持ス可カラス

明治十三年十二月廿三日第五十七號布告ヲ以テ左ノ但書ヲ追加ス
但シ本條ニ掲載セサル諸會社ノ株券ト雖モ其營業確實ナリト認ムルモノハ大藏卿ニ於テ其賣買ヲ許可スルヲ得

第三十一條 取引所ハ第一章第七條ニ掲ケタル營業保證ノ爲メ大藏省ヘ預クヘキ公債證書ヲ除クノ外自ラ諸公債證書諸株券等ヲ賣買シ又ハ之ヲ所持ス可カラス

○株式取引所規則

第三十二條 取引所ハ諸社據金ヲ使用スヘカラス又貸附金ヲ爲スヘカラス

第三十三條 (明治十五年十二月二十七日第六十四號布告ヲ以テ左ノ如ク改正ス)

取引所ニ於テ違約人ヲ處分スルハ其違約ニ依リ取引所ノ取引上ニ於テ失ヒタル利得ト蒙リタル損害トナシ其者ノ證據金及ヒ身元金ヲ以テ償ハシメ其者ヲ除名スルニ止ルヘシ而シテ仍ホ其損失ヲ償フコト能ハサルトキハ取引所ニ於テ其責ニ任スヘシ

第三十四條 取引所ハ其取引所ニ於テ株式等ノ賣買ヲ認許シタル銀行并ニ諸會社及ヒ新立會社ノ株式ヲ賣買スルコトノ依頼ヲ受クルト雖モ其事情ニ依リ之ヲ停止シ又ハ之ヲ許否スルノ權ヲ有ス

第三十五條 取引所ノ諸願伺届又ハ諸証書約定書及ヒ往復ノ文書等取引所一般ニ關スル事件ハ頭取肝煎等之ニ記名調印ス可キハ勿論ナレモ必ズ其取引所ノ名ヲ署シ取引所ノ印ヲ捺ス可シ

第六章 賣買取引ノ事

第三十六條 取引所ニ於テ爲ス所ノ賣買取引ハ現場ト定期ノ二様ニ分テ必ズ現物ノ受渡ヲ爲スヘシ

但シ三ヶ月ヨリ永キ定期ノ約ヲ爲スヘカラス

第三十七條 凡取引所ニ於テ賣買ノ約定ヲ爲シ其定期ニ係ルモノハ約定金高百分ノ五宛ニ下ラケル證據金ヲ賣買双方ヨリ差入ル可シ而シテ其期限中相場ノ高低等ニ依リテハ追証據金増証據金等ヲ差入シムルコトヲ得ヘシ

第三十八條 約定取引ノ期限ニ至テハ其品種ニ依リ記名書替等其受渡ノ手續ハ政府又ハ諸會社ノ成規ニ照ラシ之ヲ履行ス可シ

第三十九條 約定期限内ニ於テ之ヲ轉賣スルヲ得可シト雖モ其期日ニ至レハ必ズ現物ノ受渡ヲ爲スヘシ

第四十條 (明治十五年十二月二十七日第六十四號布告ヲ以テ左ノ如ク改正ス)

賣買主ニ於テ諸證據金ノ差入レヲ怠リ又ハ期限ニ至リテ其約定ヲ履行セサル者ハ都テ之ヲ違約人ト爲スヘシ

第七章 手数料ノ事

第四十一條 取引所ニ於テ收領スヘキ手数料ハ(賣買双方ヨリ)其賣買金高現場取引ハ千分ノ一定期取引ハ千分ノ二宛ニ超ユヘカラス

第四十二條 手数料ハ其決算ノ時ニ至リ賣買取引ニ關係スル他ノ債主ニ先ツテ之ヲ收受スルコトヲ得ス

第八章 検査ノ事

第四十三條 大藏卿ニ於テ要用ト思考スルモハ何時モ官員ヲ派遣シ或ハ其地方長官ニ達シテ其取引所ノ業体及ヒ金銀其他諸帖簿等ヲ検査セシムルコトアルヘシ

第九章 帖簿ノ事

第四十四條 取引所ハ毎日取扱ノ事項ハ勿論金銀ノ出納等凡テ之ヲ詳明正確ニ記載シ且其簿記ノ方法ニ於テ大藏卿ノ差圖アルキハ其差圖ニ從フ可シ

○株式取引所規則

第四十五條 取引所ニ於テ制定使用スル處ノ諸帖簿ハ其名目用法ヲ詳記シ之ヲ大藏省ヘ届出
ツ可シ

第十章 諸報告ノ事

第四十六條 取引所ハ賣買實際ノ報告及金銀出納表其他役員ノ進退並ニ株主仲買人ノ姓名等
ヲ大藏卿ノ指命スル處ニ從ヒ時々報告ヲ爲スヘシ

第十一章 納税ノ事

第四十七條 此取引所ハ退テ政府ニ於テ制定施行スル所ノ收税規則ニ遵ヒ相當ノ税金ヲ納ム
ヘシ

▲明治十一年九月三十日第三十號布告

本年(五月)第八号布告様式取引所條例第十一章ニ掲載スル税額ノ儀ハ手数料其他現収セル總
金高十分ノ一ト相定メ本年七月ヨリ徴収候條此旨布告候事

但シ納期ハ一ケ年兩度ニ區分シ前半年分ハ七月三十一日限リ後半年分ハ一月三十一日限リ
其管轄廳ヘ可相納事

▲明治十五年十二月二十七日第六十七號布告ヲ以テ左ノ如ク改ム

明治十一年(九月)第三拾號布告様式取引所稅額ノ儀手数料其他規収セル總金高十分ノ一トア
ルヲ賣買手数料總金高十分ノ一ト改ム但來十六年四月一日ヨリ施行ス

第十二章 罰則

第四十八條 取引所ノ役員及ヒ株主並ニ仲買人等此條例ヲ犯スカ又ハ役員タルモノ株主並仲

買人ノ此條例ニ背戾シタルヲ不問ニ措キ又ハ背戾セシメタル實証アルモノハ役員并ニ本人ト

モ其事ノ輕重ニ依リ三拾圓ニ少ナカラシテ千圓ヨリ多カラサル罰金ヲ科スヘシ

第四十九條 (明治十五年十二月二十七日第六十四號布告ヲ以テ左ノ通改正ス)

官員檢査ノ節取引所役員及ヒ仲買人等簿冊書類ヲ差出ストテ拒ミ又ハ疑問ニ答辯ヲ爲サ、
ル者アルトキハ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ヲ科スヘシ

▲明治十五年十二月廿七日第六十四號布告ヲ以テ第五十條ヲ追加ス

第五十條 取引所ノ規約ニ背戾シタル役員及ヒ株主仲買人ヲ取引所限リ處分スルハ之ヲ除名
スルカ或ハ過怠料ヲ取立ツルニ止マルモノトス
但其過怠料ハ株金身元金ノ高ニ超ユルヲ得ス

▲明治十三年五月十九日第二十四号布告

明治十二年(九月)第三十七号第三十八号布告ヲ以テ東京大坂株式取引所并ニ横濱取引所ニ於
テ金銀貨幣取引ノ儀當分ノ内差許置候處右取引ノ内定期賣買ノ儀ハ自今差止メ候條此旨布告
候事

但是迄取結ヒタル定期賣買ハ其約定期限ニ至リ定結候儀ト心得ヘシ

▲明治十五年八月十九日第四十六号布告

米商會所及ヒ株式取引所ノ賣買ニ不正惡弊アルカ又ハ賣買取引上ノ景况穩當ナラサル爲メ公
共ニ妨害ヲ及ホスト認ムルモノハ農商務卿ハ其會所又ハ仲買人ノ營業ノ一部又ハ全部ヲ停止若
クハ禁止シ又ハ役員ヲ退罷セシムルコトアル可シ

○株式取引所規則

但シ本年第二十六号布告米商會所條例追加第二十條ハ削除ス

△明治十四年九月十三日第四十三號布告ヲ以テ本文中大藏卿トアルハ農商務卿ト改正セラル

○第七章 米商會所規則

○明治九年八月一日第百五號布告

米商會所條例

第一條 緒言

第一節 米商會所ハ米穀流通ノ爲メ米商人ノ集會シテ賣買取引ヲ爲ス所ナリ而シテ協同結社
之ヲ創立セント欲スル者ハ農商務卿(明治十四年五月二十五日第三十一號布告ヲ以テ本條
例中内務省及ヒ内務卿又ハ大藏卿トアルハ都テ農商務省及ヒ農商務卿ト改正セラル因テ此
ニハ改正法ニ從ヒ直ニ農商務卿ト書ス以下做之)ノ免許ヲ請フヘシ

第二節 農商務卿ハ地方ノ景狀ヲ察シ之ヲ創立スルノ緊要ナルヤヲ考定シ之ヲ許可スルト否
トノ權ヲ有ス

第三節 米商會所營業ハ五ヶ年ヲ以テ一期ト定ム右滿期ノ際猶ホ之ヲ保續セント望ムモノハ
更ニ其趣ヲ申立農商務卿ノ免許ヲ乞フヘシ

第二條 會所創立ノ手續

第一節 米商會所ヲ創立スルニハ發起人十人以上ニシテ資本金ノ總額三萬圓以上タルヘシ

第二節 資本金ハ百圓ヲ以テ一株ト定メ發起人總員ニテ必ス資本金總高ノ半額以上ヲ當ル株
數ヲ所持ス可シ

第三節 會所ノ發起人ハ創立願書ニ此會所ヲ創立セントスル地方ノ從來米穀聚散ノ實況及ヒ

將來賣買ノ目的ヲ詳悉シ各記名調印シ區口長ノ奥書ヲ得會所創立證書及ヒ定款申合規則等

ヲ添ヘ之ヲ地方官廳ヘ差出スルシ

▲明治十二年二月一日第四號布告ヲ以テ左ノ但書ヲ追加ス

但シ創立證書中株主ノ責任ニ於テ有限或ハ無限ナルコト明記ス可シ

第五節 地方官廳ニ於テハ願人共ノ身元行狀ヲ檢知シ且ツ其目的ノ利害障礙ノ有無ヲ識別シ
又會議所等ノ設ケアル地方ニ於テハ其集議ヲ取リ併セテ之ヲ參酌シ相當ト思量スルキハ意
見書ヲ添ヘ農商務卿ノ具申スヘシ

第三條 開業ノ手續

第一節 發起人等ニ於テ會所創立ノ許可ヲ受ケタルキハ直ニ其旨ヲ新聞紙又ハ其他ノ方法
ヲ以テ世上ニ公告シテ他ノ株主ヲ募ルコトヲ得

第二節 (明治十三年四月十五日第十九號布告ヲ以テ左ノ如ク改正ス)發起人ハ其募リニ應ジ
タル株主等ト共ニ集會ヲ爲シ第五條ノ程限ニ從ヒ五人以上ノ肝煎及ヒ正副頭取ヲ撰任シ其
住所姓名年齢等ヲ詳記シタル書面ヲ以テ地方官廳ヲ經由シ農商務卿ノ認許ヲ受クヘシ農商務
卿ハ時トシテ其改撰ヲ命スルコトアルヘシ

第三節 此頭取肝煎等ハ資本金總高ノ三分二ニ當ル現金或ハ日本政府ノ公債證書(此公債証
書ハ時々相場ノ昂低ヲ以テ増減スヘシト雖モ明治七年大藏省乙第三十八號達ノ價額ヨリ減
少スヘカフス)ヲ其地方官廳或ハ國立銀行ニ預ケ公正ナル預リ證書ヲ乞受ケ其寫ヲ農商務

○米商會所規則

卿ニ差出シ開業免狀ヲ請求ス可シ

第四節 會所ニ於テ開業免狀ヲ受ケタル上ハ其免狀ノ寫ヲ添ヘ何月何日ヨリ其商業ヲ創ムヘキ旨ヲ新聞紙又ハ其他ノ方法ヲ以テ世上ニ公告シ始メテ之レヨリ從事スルコトヲ得

第四條 社印ノ用方并印鑑差出方等ノ手續

第一節 開業免狀ヲ得テ其商業ヲ創メントスルニ當リ會所ノ印ヲ刻シ頭取以下諸役員ノ印ト共ニ其印形ヲ一纏メヨシテ農商務卿ニ差出スヘシ若シ改刻スル者アルハ其都度之ヲ差出スヘシ

第二節 會所諸顧問届又ハ諸証書約定書及ヒ往復ノ文書等ニ至ルマテ會所一般ニ關スルコトハ其會所ノ名義ヲ用ヒ會所ノ印ヲ捺シ頭取肝煎等之ニ署名加印スヘシ

第五條 役員ノ程限

第一節 會所ノ役員ト稱スル者左ノ如ク

頭取

副頭取

肝煎

以下支配人書記等ノ名義ヲ以テ役員ヲ定ムルハ會所ノ都合ニ任ス

第二節 會所ノ役員タル者ハ該會所ニ於テ實買本人又ハ仲買人ト爲ルコトヲ斷サス

第三節 (明治十三年四月十五日第十九號布告ヲ以テ左ノ如ク改正ス)

右役員ハ株主ノ定例總集會ノ節投票ヲ以テ十株以上ヲ所持シタル株主中ヨリ肝煎ヲ撰擧シ

肝煎ハ其同僚中ヨリ正副頭取ヲ推撰シ共ニ其住所姓名年齢等ヲ詳記シタル書面ヲ以テ地方廳ヲ經由シ農商務卿ノ認許ヲ受テ新舊交代セシムヘシ農商務卿ハ時トシテ其改撰ヲ命スルコトアルヘシ

第六條 役員ノ職務

第一節 頭取ハ會所ノ事務ヲ總轄シ他ノ役員ヲ指揮シ會所一切ノ責ニ任ス

第二節 頭取ハ肝煎分掌ノ事務ヲ定ムヘシ

第三節 副頭取ハ頭取ヲ助ケテ其事務ヲ共成シ時トシテハ其代理ノ任ニ當ルヘシ

第四節 肝煎ハ支配人書記等ノ役名ヲ議定シ其者等分掌ノ課程及ヒ俸給ヲ定メ社中差違ノ事ヲ判決シ金穀ノ出納ヲ管理シ株主ノ衆議ヲ取ラントスル事柄アル時ハ之ヲ招集スルコトアルヘシ

第五節 肝煎ハ毎月何回ト定メタル會議ノ議員ト爲ルヘシ

第六節 肝煎ハ其同僚中又ハ頭取ニ於テ職任ニ不適當ノ行ヒアルカ又ハ之ヲ怠ル者アルハ臨時委員ヲ定メ次ノ肝煎會議ノ日ニ無名投票ヲ以テ三分ノ二以上ノ説ニ從ヒ之ヲ退職セシムルコトヲ得

第七條 株主ノ權利制限及株式讓渡ノ手續

第一節 株主ハ會所ノ本主ヨシテ會所資本ノ一部ヲ入金シ其入金高ニ應シタル株券ヲ所持シ以テ株數相當ノ權利ヲ有シ營業上ノ損益ヲ負擔スル者ナルカ故ニ時々ノ景況ニ着目シ金員及出納勘定帳簿ヲ檢閲セント求ムルノ權アリ

○米商會所規則

第二節 (明治十三年四月十五日第十九號布告ヲ以テ左ノ如ク改正ス)

株主ハ肝煎ノ承諾ヲ得テ仲買人ト爲ルヲ得其場合ニ於テハ別段証人ヲ要セスト雖モ通常仲買人タルノ條件ニ適應スルヲ要ス

第三節 株主ハ何等ノ事故アルトモ會所解散ノ期ニ至ラサル時間ハ其株金ヲ取戻スヲ得ス
第四節 株主ハ肝煎ノ承諾ヲ受ケタル上ニテ其所持ノ株式ヲ賣渡シ讓與ヘ又ハ質入抵當ト爲スヲ得ヘシ但シ其質入抵當ト爲シタル時間ハ總會該事ノ片發言ノ權ナク又役員ノ撰舉ニ應スルヲ得サス

第五節 株主其所持ノ株式ヲ賣渡シ又ハ讓與ヲ爲スルハ其賣買授受双方ヨリ連印ノ證書ヲ會所ニ差出スヘシ會所ハ此証書ヲ請取リタガ時ニ株主帳ノ姓名ヲ書改ムヘシ若シ右手續ヲ爲サ、レ間ハ証書賣買ノ効ナキ者トス

第八條 仲買人入社ノ手續

第一節 (明治十三年四月十五日第十九號布告ヲ以テ左ノ如ク改正ス) 仲買人タルヲ得ヘキ者ハ丁年ニシテ會所々在ノ地ニ於テ滿一年以上米商營業ヲ爲シタル者ニ限ル而シテ仲買人ト爲ラント欲スル者ハ身元金千圓以上ヲ出シ株主ニ名上ノ保証ヲ以テ肝煎ニ申出テ其承諾ヲ得タル上地方廳ヲ經由シテ仲買人ト爲ラントシ願書ヲ農商務卿ニ捧ケテ其認許ヲ受クヘシ身元金ハ現金又ハ日本政府ノ公債證書ヲ以テ會所ニ預ケ置クベシ

第二節 (明治十五年五月廿四日第廿六號布告ヲ以テ左ノ如ク改正ス)

仲買人タルモノハ他人ノ依頼ヲ受クルニテラサレハ賣買取引ヲ爲スヲ得ス其賣買取引ニ

付キ會所ニ對シ自己ノ名義ヲ以テシ其賣買取引上一切ノ責任ヲ負擔スヘシ但シ一口ノ取引

ニ付賣買双方ノ依頼ヲ受クルヲ得

第三節 (明治十三年四月十五日第十九號布告ヲ以テ左ノ如ク改正ス)

仲買人ハ五名ヲ一組トシ組合中ヨリ一名ヲ推撰シ肝煎ノ承諾ヲ得テ組頭ト爲シ組合中一切ノ取締ヲ爲サシムヘシ

第四節 仲買人退社セントスルハ其旨趣ヲ書面ヲ以テ肝煎ニ申出ベシ肝煎ハ之ヲ受ケテ十日間之ヲ會所ニ張出シ置キ會所ニ連帶シタル計算上ノ關係ナキヲ認メタル上ニテ其退社ヲ許シ身元金ヲ返付シテ証人ノ責任ヲ解クヘシ

第九條 商會所一般ノ規則

第一節 (明治十五年五月二十四日第二十六號布告ヲ以テ第一節及ヒ第二節ヲ左ノ如ク改正シ而シテ更ニ第三節以下ヲ追加セラル)

外國人ヲ株主并ニ仲買人ト爲スヲ得ス

第二節 會所ニ於テ賣買取引ヲ爲ス者ハ其會所ノ仲買人ニ限ル可シ

第三節 會所ニ於テハ貸附金ヲ爲ス可カラヌ又仲買人ノ身元金及ヒ証據金ヲ使用スベカラヌ

第四節 會所ハ此條例ノ旨趣ニ基キ賣買主双方ノ約定ヲ履行セシムルノ責任アルモノトス

第五節 會所ハ左ノ場合ニ於テハ賣買ノ違約トシテ會所限處分スルヲ得

第一 賣買主双方若クハ一方其會所ニ差入ルキ証據金ノ差入方ヲ怠ルタル時

第二 賣買主双方若クハ一方其取引約定ノ期日ニ至リ其約定ヲ執行セサル時

○米商會所規則

第三 會所ニ於テ定メタル現米検査ノ方法及受渡上ノ期約ニ背キタル時
 第六節 會所ニ於テ違約人ヲ處分スルハ其違約ニ依リ會所ノ取引上ニ於テ失ヒタル利得ト被
 リタル損害トシ其者ノ證據金及ヒ身元金ヲ以テ償ハシメ其者ヲ除名スルニ止ルベシ而シテ
 仍ホ其損失ヲ償フコト能ハサル時ハ會所ニ於テ其責ニ任スヘシ

第十條 賣買取引ノ手續

第一節 (明治十三年四月十五日第十九號布告ヲ以テ左ノ如ク改正ス其第二節以下ノ三節モ
 亦同シ)

會所ニ於テ爲ス所ノ賣買取引ハ現米直取引ト定期トノ二様ニ分チ又其定期ヲ二種ト爲シ其
 一ヲ約定ノ期限ニ至リ現米金ノ受渡ヲ爲スモノトシ其二ヲ豫定ノ期限内ニ其取引ヲ完結シ
 又ハ解約スルモノトス

第二節 現米直取引ハ見本米ヲ以テ會所内ニ於テ賣買ヲ爲シ其現石受渡ノ順序ハ會所ノ規則
 ニ從フヘシ

第三節 定期賣買ヲ約定シタル時ハ會所ノ役員ヨ届出テ賣買主双方ヨリ約定ノ證據金ヲ會所
 ニ差入ルヘシ此證據金ハ少トモ約定代金高十分ノ二ヨリ下ルヘカラス又此證據金ノ外ニ時
 々相場ノ高低ニ因テハ退証據金或ハ期日前ニ至リ猶ホ其約定ヲ確固ナラシムル爲メ増証據
 金ヲ差入レシムヘシ

第四節 定期賣買約定ノ期限ハ三月ヨリ永カルヘカラス而シテ其期日ニ至レハ會所ノ役員
 立會ノ上必ズ現米金ノ受渡ヲ爲シ其取引ヲ完結スヘシ但約定濟ノ分ハ双方ノ都合ニ依リ其

期限内ニ買戻シ又ハ買受ケタル分ヲ他人ヘ賣渡スコトヲ得

第十一條 手数料並ニ口銭ノ制限

第一節 (明治十三年四月十五日第十九號布告ヲ以テ左ノ如ク改正ス)

會所ニ於テ賣買双方ヨリ領収スヘキ手数料直取引ハ賣買金高ノ二百分ノ一ヨリ多カラス又
 定期取引ハ千分ノ二ヨリ多カラサルヘシ

第二節 (明治十二年二月一日第四號布告ヲ以テ左ノ如ク改正ス)

仲買口銭ハ其額八トノ示談ニ任スト雖モ其制限ハ前節手数料ノ高ニ超ユヘカラス

第三節 手数料口銭ハ其決算ノ時ニ至リ賣買取引ニ關スル他ノ債主ニ先ツテ之ヲ收受スルコ
 トヲ得

第十二條 會議ノ規則

第一節 會所ノ會議ヲ分ツテ肝煎會議ト株主總集會トノ二類トス

第二節 肝煎會議ハ毎月何回ト定メ頭取ヲ以テ議長ト爲ス此會議ニ於テ發言ノ權ハ一人ニ付
 一説ト定メ衆說ヲ取リテ其議事ノ可否ヲ決ス若シ可否ノ數相半ハスル時ハ議長ノ判決ニ任
 カス

第三節 右會議ニ當リ出席定員ノ半ニ充タサル時ハ其議事ヲ始ムヘカラス但シ急遽ノ事件ハ
 格別ナリトス

第四節 株主ノ總集會ハ毎年一度又ハ數度例月ヲ定メテ之ヲ開ク此集會ハ頭取肝煎ノ撰舉及
 ヒ會所營業ノ價況計算ノ得失ヲ議スルヲ主務トス

○米商會所規則

第五節 株主五分ノ一以上ノ請求又ハ肝煎ノ衆議ニ依リテハ臨時總集會ヲ開クヲ得

第六節 總集會ニ於テノ發言ノ權利決議ノ方法ハ便宜ニ從テ之ヲ定ムヘシ

第七節 總集會ニ於テノ議長ハ頭取又ハ株主中ヨリ撰舉スルモ妨ケナシ

第十三條 資本金増減ノ手續

第一節 會所ニ於テ資本金高チ増減セントスルキハ總集會ノ決議案ヲ具シ頭取肝煎其次第ヲ詳記シ農商務卿ノ指揮ヲ受クヘシ

▲明治十五年五月廿四日第廿六号布告ヲ以テ左ノ但書ヲ追加ス

但シ其資本金賣買取引ノ景況ニ對シ不適當ト認ムルキハ農商務卿ハ其適當ノ金額ニ増加スヘキ旨ヲ命スルコアルヘシ

第二節 右増減ノ許可ヲ得タル上ハ直チニ世上ニ公告シ其増減セシ名前書ヲ取纏メタル上農

商務卿ニ届出且地方官廳或ハ銀行ニ預ケタル營業保證ノ金額チ増減スヘシ

第十四條 損益金計算ノ定規

第一節 頭取肝煎ハ毎年兩度以上營業ノ總決算ヲ爲シ其内税金並積立金其他一切ノ社費ヲ引去リ殘リ損益高チ以テ株數ニ割リ合セ之ヲ株主ニ分賦スヘシ

第二節 右計算表ハ株主ニ分賦ノ日ヨリ十五日内農商務卿ニ届出且ツ世上ニ公告スヘシ

第十五條 納稅ノ手續及ヒ積金ノ規則

第一節 (明治十五年五月廿四日第廿六号布告ヲ以テ左ノ如ク改正ス)

會所ハ會所ニ於テ領收セシ賣買手数料總金高十分ノ四ヲ稅納スヘシ而シテ其税金前半年分

ハ七月中後半分ハ翌年一月中之ヲ地方廳へ上納スヘシ

第二節 株主等へ配當スベキ純益金一ケ年一割即チ百分ノ十以上ノ利息ニ當リキハ肝煎ノ衆議ヲ以テ制賦高ノ内幾分ヲ引去リ之ヲ積立チ以テ非常準備金ト爲ス可シ

第十六條 報告ノ定規

第一節 (明治十五年五月二十四日第廿六号布告ヲ以テ左ノ如ク改正シ且第二節及ヒ第三節ヲ追加ス)

會所及ヒ仲買人ハ毎日报帳ノ事項并ニ金繰出納等凡テ之ヲ詳明正確ニ記載シ且其簿記ノ方法ニ於テハ農商務卿ノ差圖アルキハ其差圖ニ從フヘシ

第二節 會所及仲買人ニ於テ使用スル所ノ諸帳簿ハ其名目用法ヲ詳記シ之ヲ農商務卿ニ届出

第三節 會所ハ賣買實際ノ景況及金繰出納其他役員ノ進退并ニ株主ノ異同仲買人ノ退社ヲ農商務卿ニ報告スベシ

第十七條 官員検査規則

第一節 (明治十五年五月廿四日第廿六号布告ヲ以テ左ノ如ク改正ス)

地方長官ハ時々官員ヲ派出シ會所及仲買人營業ノ摸樣其他諸帳簿并現米ノ所在其受渡ノ實況及會所ノ現金等ヲ査覈セシムヘシ又時トシテハ農商務省ヨリ官員ヲ派出シ之ヲ検査セシムルコアルヘシ若シ右検査官員ヨリ疑問等アルキハ會所ノ役員及ヒ仲買人等ハ逐一答辨ヲ爲ササルヘカラス

○米商會所規則

戊十九

第十八條 諸願届其他ノ書類上達ノ定規

第一節 (明治十五年五月廿四日第廿六號布告ヲ以テ左ノ如ク改正ス)
會所ヨリ農商務卿ニ差出スヘキ文書中諸願ハ二通其他ハ一通宛ニシテ其差出方ハ地方廳ヲ經由ス可シ

第十九條 罰則

第一節 (明治十三年四月十五日第十九號布告ヲ以テ左ノ如ク改正ス)
會所ノ役員及ヒ株主仲買人等此條例ヲ犯スカ又役員タル者株主仲買人條例ニ背犯シタルヲ不問ニ措キ又ハ背犯セシメタル實証アルルハ役員并ニ本人トモ其經重ニ依リ三十圓以上千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二節 明治十六年八月第三十號布告ニ依リ刪除ス

第三節 (同上従前ノ第二節ヲ以テ本節ニ作ル乃チ左ノ如シ)

官員檢査ノ節簿冊書類ヲ差出スコトヲ拒ミ又ハ疑問ニ答辨ヲ爲サハル者アルルハ頭取又ハ其主任者ヘ五十圓以下ノ罰金ヲ科スヘシ

▲同上従前ノ第三節ヲ以テ改メテ第四節ヲ置キ更ニ明治十五年五月十四日第廿六號布告ヲ以テ之ヲ改正ス乃チ左ノ如シ)

第四節 會所ノ規約ニ背犯シタル役員株主仲買人ヲ會所限リ處分スルハ之ヲ除名スルカ或ハ過怠料ヲ取立ルニ止マルモノトス但シ其過怠料ハ株金身元金ノ高ニ超ルヲ得ス

▲明治十五年八月十九日第四十六號布告

米商會所及ヒ株式取引所ノ賣買ニ不正惡弊アルカ又ハ賣買取引上ノ景況穩當ナラサル爲メ公共ニ妨害ヲ及ホスト認ムルルハ農商務卿ハ其會所又ハ仲買人ノ營業ノ一部又ハ全部ヲ停止若クハ禁止シ又ハ役員ヲ退罷セシムルコトアルヘシ

但シ本年第二十六號布告米商會所條例追加第二十條ハ削除ス

▲明治十三年四月十五日第二十一號布告

法律定規ニ遵ヒ官許ヲ得タル米商會所株式及ヒ橫濱取引所外若クハ内クリニ竊カニ米穀并ニ金銀貨幣及ヒ株式ノ限月若クハ現場(定規ヨリ起リタル現場ヲ云フ)賣買其他之ニ類似シタル取引ヲ爲シタル者及ヒ情ヲ知テ賣買取引ノ場所ヲ給與シタル者若クハ其賣買取引ヲ誘助シタル者ハ十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處シ其賣買取引ハ無効ト爲スヘシ

但シ本條ヲ犯シタル者ヲ告發シタル者ニハ其告發ニ因テ科シタル罰金ノ全部ヲ給ス其自ラ犯シタル者事未タ發覺セサル前ニ於テ自首シタルルハ其罪ヲ問ハス

▲明治十三年九月廿二日太政官達第四十九號

近來竊ニ製茶砂糖反物薪炭等種々ノ品物ヲ以テ限月若クハ現場賣買類似ノ商業ヲ爲ス者有之趣右ハ總テ本年(四月)第二十一號布告ニ依リ處分スヘキ儀ト心得ヘシ此旨相達候事

▲明治十五年十二月廿七日第六十六號布告

明治九年(八月)第百五號布告米商會所條例第十條第三節中約定代金高十分ノ二トアルヲ十分ノ一ト改メ第十五條第一節中賣買手数料總金高十分ノ四トアルヲ十分ノ二ト改ム但來十六年四月一日ヨリ施行ス

○米商會所規則

▲明治十五年十二月二十七日第六十五號布告

米商會所并株式取引所仲買人納稅規則左ノ通制定シ來十六年四月一日ヨリ施行ス

米商會所株式取引所仲買人納稅規則

第一條 米商會所仲買人定期賣買ヲ爲ストキハ賣買雙方ヨリ各約定代金高千分ノ五ヲ納稅ス

ヘシ

第二條 株式取引所株式仲買人公債證書并諸株式ノ定期賣買ヲ爲ストキハ賣買雙方ヨリ各約定代金高千分ノ二ヲ納稅スヘシ

第三條 第一條第二條ノ場合ニ於テ定期内ニ轉賣又ハ買戻ヲ爲ス者ハ其轉賣又ハ買戻ニ係ル稅ヲ免除ス

第四條 株式取引所金銀貨仲買人金銀貨ノ取引ヲ爲ストキハ賣買雙方ヨリ各其取引代金高千分ノ二半ヲ納稅スヘシ

第五條 賣買ヲ解約スルコトアルモ其稅金ハ之ヲ還付セス

第六條 稅金ハ會所又ハ取引所ニ納ムヘシ

第七條 會所及取引所ハ仲買人ヨリ納メタル稅金ヲ每一箇月取纏メ翌月十日限り地方廳ニ上納スヘシ

第八條 稅金徵收ノ方法ハ大藏卿ノ達ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第九條 大藏卿ハ地方廳ニ委任シ又ハ隨時官吏ヲ派出シ納稅ノ精算ヲ檢査セシムヘシ

第十條 稅金ヲ納メズシテ賣買取引スル者ハ脫稅尙三倍ノ罰金ニ處ス但此場合ニ於テハ仲買人タルノ認斷ハ其効ヲ失フモノトス

人タルノ認斷ハ其効ヲ失フモノトス

第十一條 前條ノ罰金ハ仲買人ノ身元金ニ對シテ第一先取ノ特權ヲ有スヘシ

第十二條 會所及取引所ニ於テ本則納稅取締ヲ怠タルトキハ米商會所條例第十九條第一節株式取引所條例第四十八條及本年第四十六號布告ニ依リ處分シ仍ホ其資本金ヲ以テ納稅ノ欠額ヲ還徵スヘシ

▲明治十六年八月六日第二十九號布告

米商會所及ヒ株式取引所ノ仲買人ニシテ竊ニ米穀并金銀貨幣公債證書株式ノ限月若クハ現場

(定期ヨリ起リタル現場ヲ云フ)賣買又ハ其類似ノ取引ヲ爲シタル者及情ヲ知テ賣買取引ノ場

所ヲ給與シタル者若クハ其賣買取引ヲ誘助シタル者ハ五拾圓以上千圓以下ノ罰金ニ處シ其賣

買取引ハ米商會所條例及株式取引所條例ノ手續ヲ爲サシム

▲明治十六年一月十五日第四號布告

米商會所株式取引所ノ限月若クハ現場賣買ノ方法ニ倣ヒ又ハ之ニ類似ノ方法ヲ用ヒ諸物品ノ

賣買取引ヲ爲シタル者及ヒ情ヲ知テ賣買取引ノ場所ヲ給與シタル者若クハ其賣買取引ヲ誘助

シタル者ハ總テ明治十三年(四月)第二十一號布告ニ因リ處分スヘシ

○明治七年七月廿九日第八十一號布告

証券印稅規則

第一則 綱領

第一條 凡ソ人民財產ノ受授並ニ交際上相用ヒ候証書帳簿類ハ都テ此規則ノ通証券(○印紙

○印紙界紙規則)証券印稅規則

○界紙)ヲ相用フヘキ事

第二條 總テ規則ノ通り証券(○印紙○界紙)ヲ用ヒサル者ハ後日如何体ノ故障差起出訴ニ及ヒ候共其書類ハ一切取揚ケ裁判不相成候事

第三條 証券(○印紙○界紙)ハ買求差支無之様各府縣管下適宜ノ場所へ賣捌所相設置候條下條ニ掲載セル定價ヲ以テ買取ヘキ事

第四條 賣捌所ハ証券印紙賣捌所ト大書シ官ノ焼印アル看板ヲ掲ケル家ニ限ルヘシ其外ニ於テハ一切賣買禁止ノ事

第五條 印紙ノ種類定價左ノ通候事

淡黑色印紙	定價一 錢
薄赭色 全	全 五 錢
青色 全	全 十 錢
黄色 全	全 二十五 錢
橙黄色 全	全 五十 錢
紅色 全	全 壹 圓
深紫色 全	全 五 圓
深紅色 全	全 貳 十 圓
第六條 証券界紙ノ定價左ノ通候事	定價七 厘
大判界紙	

中判 全

小判 全

右ノ界紙ハ大中小判ノ三種アリト雖モ其證書ノ文義長短ニ因リ便宜ニ任セ何種ヲ相用フルモ適宜タルヘキ事

第二則 諸證書

第一條 諸證書ヲ分テ三類トス

○第一類諸證書

一 賣品并職業ニ管スル金錢受取書

右ノ受取書ハ金高十圓以上總テ一錢ノ印稅十圓未滿ハ印紙界紙ヲ用フルニ及ハス

一 預リ(○金證文○手形)

一 耕地小作証文

一 遺金証文

右ノ証書類ハ金高十圓以上ハ總テ一錢ノ印稅十圓未滿ハ界紙ヲ用フヘシ

一 質物(○預リ書○小札)

右ノ証書ハ金高十圓以上ハ一錢ノ印稅十圓未滿ハ印紙界紙ヲ用ルニ及ハス

一 諸會社株手形

一 荷物送り狀

一 荷物預リ証書

○印紙界紙規則○証券印稅規則

一(○地所○建家)讓與証書

一物品讓與証書

一公債証書類讓渡証書

一跡式讓狀

右ノ証書類ハ金高ニ拘ヘラズ總テ一錢ノ印稅

▲明治八年第百二十六号布告ヲ以テ左ノ通追加ス

一預リ米(○証文○手形)

一預リ雜穀(○証文○手形)

右証書ハ(米高五石雜穀高十石)以上ハ總テ一錢ノ印稅(米高五石雜穀石高十石)未滿ハ界紙

ヲ用フヘシ

○第二類諸証書

一借用金証文

一預リ金(証文○手形)但シ使用ヲ爲サ、ルノ明文無之分

一地所并建家賣渡証文

一地所并建家(質入○書入)証文

一公債証書類賣買証文

▲明治七年第百三十六号布告ヲ以テ左ノ通追加ス

一諸品賣買仕切書

▲明治十二年第三十一号布告ヲ以テ左ノ但書ヲ追加ス

但シ買仕切トハ荷主ヨリ輸送シ又ハ輸送セントスル物品ヲ問屋仲買又ハ其他ニ於テ仕

切リ其價等ヲ荷主ニ証明報告スル書類ヲ云ヒ賣仕切トハ荷主ヨリ他ニ物品又ハ輸送ス

ルニ方テ其物賣却ノ價額ヲ荷受主ニ向テ証明報告スル書類ヲ云フ

右ノ仕切書ハ

書面金高十圓未滿ハ

界紙ニ及ハス

同斷金高十圓以上二十圓未滿ハ

一錢

同斷金高二十圓以上三十圓未滿ハ

二錢

同斷金高三十圓以上四十圓未滿ハ

三錢

同斷金高四十圓以上五十圓未滿ハ

四錢

右以上幾許ノ高ニ至ルモ總テ之ニ準シ印稅增加スルニ依

一荷爲換手形

一諸請負證文

一金錢約定証文

一金錢約定爲取換証文

一米穀并諸品賣買約定證文

一米借用証文

一米雜穀借用証文

○印紙界紙規則○証券印稅規則

一 賣買用諸品(代價拾圓以上)借用証文

一 借地証文

一 借家証文

一 金十圓以上記載雇人請狀

一 諸賣買證據金預り手形

一 諸敷金証文

▲明治八年第百二十六號布告ヲ以テ左ノ通追加ス

一 預り米(○証文○手形)但使用ヲ爲サ、ル明文無之分

一 預り雜穀(○証文○手形)但使用ヲ爲サ、ル明文無之分

右ノ証書類ハ

書面 金高十圓未滿ハ

米高五石未滿ハ

界紙ヲ用フヘシ

同斷 金高十圓以上二十圓未滿ハ

米高五石以上十石未滿ハ

印稅 一錢

同斷 金高二十圓以上三十圓未滿ハ

米高十石以上十五石未滿ハ

全 二錢

同斷 金高三十圓以上四十圓未滿ハ

米高十五石以上廿石未滿ハ

全 三錢

雜穀高三十石以上四十石未滿ハ

右以上幾許ノ高ニ至ルモ總テ之ニ準シ印稅增加メタスヘシ

○第三類諸証書

一 諸酒切手

右ノ切手ハ

升目一升未滿ハ

界紙ニ及ハス

同一升以上一斗未滿ハ

印稅 一錢

同一斗以上二斗未滿ハ

全 二錢

同一斗以上三斗未滿ハ

全 三錢

右以上幾許ノ高ニ至ルモ總テ之ニ準シ印稅增加致スヘシ

▲明治七年第百三十六號布告ヲ以テ左ノ通り追加ス

一 爲換手形

一 荷爲換手形

右ノ手形ハ

書面 金高五十圓未滿ハ

界紙ニ及ハス

同斷 金高五十圓以上百圓未滿ハ

印稅 一錢

同斷 金高百圓以上百五十圓未滿ハ

全 二錢

同斷 金高百五十圓以上二百圓未滿ハ

全 三錢

同斷 金高二百圓以上二百五十圓未滿ハ

全 四錢

○印紙界紙規則 ○証券印稅規則

右以上幾許ノ高ニ至ルモ總テ之ニ準シ印稅增加イタスヘシ

一食類切手

右ノ切手ハ

代金高廿五錢未滿ハ

界紙ニ及ハス

同廿五錢以上二圓五十錢未滿ハ

印稅 一錢

同二圓五十錢以上五圓未滿ハ

全 二錢

同五圓以上十圓未滿ハ

全 三錢

右以上幾許ノ高ニ至ルモ總テ之ニ準シ印稅增加致スヘシ

一米油醬油其外諸品賣買切手

右ノ切手ハ

代金高廿五錢未滿ハ

界紙ニ及ハス

同廿五錢以上五圓未滿ハ

印稅 一錢

同五圓以上十圓未滿ハ

全 二錢

同十圓以上二十圓未滿ハ

全 三錢

右以上幾許ノ高ニ至ルトモ總テ之ニ準シ印稅增加致スヘシ

一荷物請取書

右ノ受取證ハ送狀附添ハサル分ハ界紙ニ及ハス送狀附添ノ分ハ界紙ヲ用フル歟又ハ印紙貼用ノ荷物別取帳ニ配スヘシ

一金高記載無之(○約定証書○雇人請狀)類

右ノ証書類ハ總テ界紙ヲ用フヘシ

▲明治十二年第三十一號布告ヲ以テ左ノ一項追加ス

一銀行當座預リ金小切手

右ノ小切手ハ金高ニ拘ハラズ總テ一錢ノ印紙ヲ徵收シ大藏省ニ於テ稅印ヲ押捺スルモノトス

第二條 証書・總テ証書渡主ニテ印紙貼用ノ上必ス實印ヲ以テ其印紙前面滅却セサル様第一

号圖ノ通訓印致スヘキ事

第三條 院省使府縣ノ官印或ハ諸官吏ノ公務ニ依リ調印セル受取書証書類ハ印紙界紙ヲ用フ

ルニ及ハサル事

第四條 租稅並ニ賦金及ヒ區入費取立ノ節區長ヨリ相渡候受取書ハ界紙ヲモ用フルニ及ハ

サル事

第五條 官祿家祿賞典救助受取書又ハ裁判請書及ヒ訴訟濟口証文等ハ都テ印紙界紙ヲ用フル

ニ及ハサル事

第三則 諸帳簿

第一條 諸帳簿類分テ三類トス

○第一類 諸帳簿

一金錢判取帳

○印紙界紙規則 ○証券印稅規則

一 質物通帳
一 金錢當座預・通帳

右ノ帳簿類ハ

附込見積金高百圓未満ハ

印紙貼用ニ及ハス

同斷金高百圓以上二百圓未満ハ

印稅 一錢

同斷金高二百圓以上三百圓未満ハ

全 二錢

同斷金高三百圓以上四百圓未満ハ

全 三錢

右以上幾許ノ高ニ至ルトモ總テ之ニ準テ印稅增加致スヘシ

○第二類諸帳簿

一 質物臺帳

一 金錢一時(○貸○借)通帳

一 諸品損料帳

一 商賣品當座(○貸○借)通帳

一 金錢預・通帳(假使用ヲ爲サ、ルノ明文無之分

右ノ帳簿類ハ

附込見積金高百圓未満ハ

印紙貼用ニ及ハス

同斷金高百圓以上二百圓未満ハ

印稅 五錢

同斷金高二百圓以上三百圓未満ハ

全 拾錢

同斷金高三百圓以上四百圓未満ハ

全 拾五錢

右以上幾許ノ高ニ至ルトモ總テ之ニ準テ印稅增加致スヘシ

○第三類諸帳簿

一 荷物判取帳

一 諸品判取帳

右ノ帳簿ハ附込ノ箇數ニ拘ハラヌ一ケ年ニ付印稅二十錢

第二條 (○第一類○第二類)帳簿へ印紙貼用ノ儀ハ一ケ年以上附込ヘキ見積金高ヲ以テ第三

号書式ノ通り帳簿ノ初丁へ自身ニ相ヒ記シ其金高ニ應シタル印紙貼用ノ上必ラズ實印ヲ以

テ調印イタスヘキ事

但シ帳簿初丁へ記シタル附込見積金高相ヒ滿テ候マテハ何ケ年相ヒ用ヒ候トモ苦シカラ

サル事

第三條 第三類ノ帳簿へ印紙貼用ノ儀ハ其帳簿可相用年限ヲ見積リ第四号書式ノ通り帳簿ノ

初丁へ自身ニ相記シ其年限ニ應シタル印紙貼用ノ上必ズ實印ヲ以テ調印致スヘキ事

但シ帳簿ノ初丁へ記シタル年限相滿候マテハ何箇數附込候トモ苦シカラサル事

第四條 一旦印紙貼用ノ(○第一類○第二類)帳簿附込見積金高相滿候歟又ハ第三類帳簿年限

相滿餘白ノ紙敷有リテ再用セント欲スル者尙ホ其帳簿ニ應シ(○第三號○第四號)書式ノ通

改テ書記シ印紙貼用致スヘキ事

第五條 第二類ノ証書ヲ若シ便利ノ爲メ帳簿ニ相綴リ書載候儀不苦候ヘ其帳簿ハ其附込ノ

○印紙界紙規則○証券印稅規則

廉每ニ第二則第一條ノ通印紙貼用致スヘキ事

第六條 印紙貼用ノ諸帳簿ハ其掛リ官員巡廻調査ヲ遂ケ候儀モ可有之尤モ其節ハ巡廻日附前以テ可相達候條印紙貼用ノ帳簿ハ無遺漏調査ヲ受クヘキ事

第七條 (○第一類○第二類)附込見積金高相滿候歟又ハ第三類帳簿ノ期限相滿候節ハ其帳末ニ第五號書式ノ通與書ノ上調印致シ置キ前條官吏巡廻ノ節蓋出檢印ヲ受クヘキ事

第四則 賞罰例

第一條 証券界紙相用ヘキ証書類ニ証券界紙ヲ用ヒサル者ハ脱稅高(界紙定價三種平均五厘)ノ貳十倍(則拾錢)其証書ヲ受取タル者ハ脱稅高ノ拾倍(則五錢)過料タルヘキ事

第二條 (○第一類○第二類○第三類)ノ証券印紙ヲ貼用セサル者ハ脱稅高ノ二十倍其証書ヲ受取タル者ハ脱稅高ノ十倍過料タルヘキ事

第三條 (○第一類○第二類)ノ諸帳簿ヘ証券印紙ヲ貼用セサル者ハ脱稅高ノ二十倍過料タルヘキ事

第四條 (○第一類○第二類)証券印紙貼用ノ帳簿見積高附込相濟餘白ノ紙數之レアルトテ第三則第四則ヲ犯シ更ニ証券印紙ヲ貼用セス猶附込候者ハ脱稅高ノ拾倍過料タルヘキ事

第五條 第三類ノ諸帳簿ヘ証券印紙ヲ貼用セサル者ハ脱稅高(譬ヘハ無印紙ニ一ケ年未滿相用フル者ハ則二十錢ノ脱稅ニケ年未滿相用フル者ハ則四十錢ノ脱稅ニ當ル類ナリ)以上之ニ準シ一ケ年以内二十錢ツノ割合ヲ以テ之レヲ算ス)ノ六倍過料タルヘキ事

第六條 第三類証券印紙貼用ノ帳簿期限相滿餘白ノ紙數之レアルトテ第三則第四條ヲ犯シ更ニ

ニ証券印紙ヲ貼用セス猶附込候者ハ脱稅高(譬証書上同斷)ノ四倍過料タル事

第七條 諸証書帳簿ニ証券印紙ヲ不足ニ貼田セシモノハ其減稅高ノ拾倍其証書受取タル者ハ減稅高五倍ノ過料タルヘキ事

第八條 規則ニ從テ貼用セシ諸証書帳簿ノ証券印紙ニ調印セサル者ハ三十圓以下ノ過料タルヘキ事

但其調印セサル証書ヲ受取タル者ハ渡主ニ稱スル半高ノ科料タルヘキ事

第九條 証券印紙ヲ貼用セサル歟又ハ印紙不足ナル歟或ハ貼用ノ印紙ニ調印セサル歟又ハ界紙可相用諸証書ニテ界紙ヲ用ヒサル証書ヘ証人ニ相立又ハ與書等致シ候者ハ二十五圓以下ノ過料タルヘキ事

第十條 官許賣捌所ノ外ニ於テ第一則第四條ニ背キ証券(○印紙○界紙)ヲ賣捌致シ候者ハ其品取揚ケ既ニ賣捌タル(○印紙○界紙)代ノ百倍其情ヲ知テ之ヲ買フ者ハ其品取揚ケ(○印紙○界紙)代ノ五十倍過料タルヘキ事

第十一條 証券印紙貼用致スヘクシテ全ク貼用無之諸帳簿ニ調印イタシ候者ハ其人毎ニ帳簿主ヨリ取立候過料高百分ノ一ヲ各過料タルヘキ事

第十二條 一旦相ヒ用ヒ調印セシ証券印紙ヲ再用セントシテ之ヲ剝取リ調印ヲ洗滅スル者或ハ洗滅シタル者ト知テ之ヲ再用スル者又ハ之ヲ賣買スル者ハ六十圓以下ノ過料タルヘキ事

第十三條 証券(○印紙○界紙)ヲ贗造スル者又ハ贗造セシ品ト知テ之ヲ賣買スル者ハ都テ九十圓以下ノ過料タルヘキ事

○印紙界紙規則○証券印稅規則

第十四條 前條條ニ掲タル處ノ犯人ヲ見届ケ訴出ル者アルハ事實取乱ノ上相違ナキニ於テハ其賞トシテ其過料金ノ半高ヲ下サルヘキ事

▲明治八年第五十一號布告ヲ以テ左ノ通り第十五條ヲ増補ス

第十五條 証券印紙貼用スヘキナ界紙ニ認メ渡ス者ハ減稅高ノ十倍其受取タル者ハ減稅高五倍ノ過料タルヘキ事

第五則 附錄

第一條 諸証券ニ外國貨幣ヲ以テ記載セル分ハ其節ノ相場ヲ以テ內國通貨ニ計算シ其高ニ應ジ印紙貼用致スヘキ事

第二條 公債証券類ハ其証券面ノ金高ニ拘ハラズ賣買ノ正金高ヲ以テ計算シ其高ニ應ジ印紙貼用致スヘキ事

第三條 官ノ金銀諸拜借証文ノ儲衆庶一般ノ災厄ヨリ起レル救助ニ關スル分ハ(○印紙○界紙)ヲ用フルニ及ハサレモ其餘ノ諸拜借ハ總テ借用金銀証文規則ノ通タルヘキ事

第四條 印紙貼用アル諸証券ヲ事故アリテ書改候節ハ新証券ヘ更ニ印紙貼用致スヘキ事

第五條 凡ソ諸証券帳簿ニ誤リテ過剩ノ印紙ヲ貼用セル者ハ其証ニ於テ妨ケナキ事

第六條 諸証書ヲ差戻シ又ハ諸切手類現品引替ノ節戻シ主ニ於テ嘗テ調印アル印紙面ヲ塗消シ或ハ引裂キ相戻スヘキ事

第七條 各所問屋ヲ經テ送致スル荷物送狀ヲ途中(宿湊問屋)ニ於テ其儘繼送候節ノ添狀ハ印紙貼用ニ及ハサレモ右荷物ヲ引分ケ各別ニ差送候節ノ新規送狀ハ規則ノ通印紙貼用致スヘキ事

キ事

第八條 爲取換約定書ノ類ハ双方トモ印紙貼用致スヘキ事

第九條 (明治七年第八十九號布告ヲ以テ左ノ通り改正ス)

院省使府縣廳ニ於テ銀行又ハ爲換方等ニ資金其他官金相預候節預リ金証文並ニ預リ金通帳ハ印紙界紙ヲ用フルニ及ハサレモ

第十條 (明治八年第四號布告ヲ以テ削除ス故ニ畧ス)

第十一條 印稅規則ニ相觸候証書並ニ帳簿ヲ授受致候儀相顯レ規則ノ通り過料金差出シ候後ニ至ツテモ其証書帳簿ハ取揚ケ裁判不相成候事

第十二條 前條ニ掲クル証書ヲ以テ公裁ヲ仰カント欲スル節ハ受取主ニ於テ相當ノ印紙ヲ貼用シ調印濟ノ上ハ取揚ケ裁判可致事

第十三條 第十一條ニ掲クル証書ノ内界紙可相用處他紙ヲ相用候証書ヲ以テ公裁ヲ仰カント欲スル節ハ受取主ニ於テ其証書ニ一錢印紙ヲ貼用シ調印濟ノ上ハ取上ケ裁判可致事

第十四條 第十一條ニ掲クル帳簿ヲ以テ公裁ヲ仰カント欲スル節ハ帳簿主ニ於テ相當印紙ヲ貼用シ調印濟ノ上ハ取揚ケ裁判可致事

第十五條 甲乙等ノ號ヲ各帳ニ記付シ同金高ヲ記載シ彼我ニ各一帳ツ、所持シテ相互ニ交換致ス通帳ノ類ニ冊トモ後証トナルヘキモノハ甲乙共印紙貼用致スヘキ事

第十六條 旅行先ニテ相用候帳簿ハ其管轄地ニテ官員巡廻ノ節調査ヲ受候トモ又ハ出先ニテ官員巡廻ノ節調査ヲ受候共便宜ニ任スヘキ事

○印紙界紙規則 ○証券印稅規則

第十七條 最初帳簿附込見積金高百圓以内ト見込印紙貼用セズ官員ノ調査ヲ受ケサルモノ漸々附込相嵩ミ誤テ百圓以上ニ及ビ候者ハ附込金高二百圓以内ニテ他ヨリ發覺セサル以前ニ印紙貼用調印ノ上其管轄廳ヘ差出調査ヲ受候コト於テハ犯則ノ限ニ無之事

第十八條 印紙多數用フル節證書面狹隘ニテ貼用シ難キ分ハ證書裏面ヘ貼用致シ第二號圖ノ通り調印致スヘキ事

▲明治七年第百三十七号布告ヲ以テ左ノ一ケ條ヲ追補ス

一委任狀ノ儀ハ總テ界紙ヲ用フヘキ事

(圖面畧ス)

▲明治七年大藏省第八十號達
証券印稅規則公布相成候コト付テハ管下人民ヘ左之通可相達事

一証券印紙貼用セル諸帳簿ハ其表紙ノ端ヘ(印稅齊)又附込見積金高百圓未滿ニテ印紙貼用ニ及ハリテ諸帳簿ニハ前同様無稅帳ト顯然有稅無稅ノ分別ヲ朱ニテ相記シ取引先ノ便ニ供ヘ候様可致事

但証券印紙貼用アルヘキ諸帳簿ヘ萬一印紙貼用無之儘ニテ授受致シ候節ハ帳簿主ノミナラス取引ノ上調印致シ候者ト雖モ証券印稅規則中賞罰例第十一條ノ通りニ候條各自精々注意可致事

▲明治八年大藏省甲第八號布達

人民財産ノ受授並交際上相用候諸帳簿ノ儀ハ証券印稅規則ノ通其類ニ應シタル印紙ヲ一帳毎ニ類別ヲ以テ貼用可致等ニ候ヘ馬若シ一帳中ヘ第一類第二類ヲ取交セ付込度モノハ其合計見

積金高ニ應シタル第二類印紙ヲ別紙圖式ノ通貼用致置候上ハ一帳簿ヘ雜記候トモ不苦候條此旨布達候事

但第三類帳簿ニ第一類第二類ヲ雜記致度節ハ第三類ノ印紙貼用ノ外本文ニ準シ第二類ノ印紙ヲ並貼用可致候尤モ一類而已ヲ雜記致ス節ハ第一類ノ印紙ヲ並ヘ貼用可致事

○明治十五年十月廿七日第五十一號布告

賣藥印紙稅則左ノ通り相定メ來ル明治十六年一月一日ヨリ施行ス

賣藥印紙稅規則

第一條 賣藥ニハ必ラス定價ヲ附記シ其定價ニ從ヒ營業者ニ於テ左ノ割合相當ノ印紙ヲ貼用ス

印紙稅ノ割合	印稅
一定價一錢迄	壹厘
一全 貳錢迄	貳厘
一全 三錢迄	三厘
一全 五錢迄	五厘
一全 拾錢迄	壹錢

以上總テ五錢迄毎ニ五厘ヲ增加ス

第二條 印紙種目ハ左ノ如シ

價	厘	淡	黒	色
壹	五	淡	黒	色

○印紙界紙規則○賣藥印紙稅規則

戊卅九

貳	厘	青	色
三	厘	黃	色
五	厘	茶	色
壹	錢	赭	色
貳	錢	綠	色
三	錢	濃	青
四	錢	橙	色
五	錢	紫	色
拾	錢	深	紅
		色	色

戊四十

第三條 印紙ハ藥品ノ容器又ハ包紙等ニ貼用シ營業者ニ於テ之ヲ消印スヘシ

但シ印紙面ノ中心ヨリ他所ヘ掛ケ消印スヘシ

第四條 賣藥印紙ハ官ノ許可シタル賣捌所ニ限り賣捌シモノトス

第五條 營業者ニシテ無印紙ノ藥品ヲ發賣シタル者ハ貳圓以上貳百圓以下ノ罰金ニ處シ印紙不足ノ藥品ヲ發賣シタル者ハ貳圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第六條 請賣者行商者ニシテ無印紙ノ藥品ヲ所持シ若クハ之ヲ販賣シタル者ハ貳圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ印紙不足ノ藥品ヲ所持シ若クハ之ヲ販賣シタル者ハ貳圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第七條 貼用印紙ハ消印セサル者ハ貳圓以上十圓以下ノ罰金ニ處ス

第八條 印紙賣捌所ノ外ニ於テ印紙ヲ賣捌ク者ハ貳圓以上貳圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其品ヲ沒收ス其情ヲ知テ之ヲ買受ケタル者ハ貳圓以上十圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其品ヲ沒收ス

▲明治十五年十一月十七日第二十四號布達
本年(十月)第五十一號布告賣藥印紙規則施行ニ付テハ賣藥營業者ニ於テ必ラズ印紙ヲ貼用スヘキ等ノ處該稅則施行以前既ニ請賣者又ハ行商者ニ渡シタル賣藥ハ此ノ際ニ限り請賣者又ハ行商者ニ於テ印紙ヲ貼用スルヲ得ヘシ

○明治八年十二月廿日第百九十六號布告
訴訟用郵紙規則

第一條 凡ソ訴訟ヲ生シ公裁ヲ仰カントスレハ此規則第九條中第一項第二項第三項第四項ニ照準シ原被告人共裁判官ニ差出ス訴答及ヒ證書ノ寫等一切ノ書面ハ其類ノ郵紙ヲ用フヘキ事

但シ訴答等ノ表紙書式等ハ訴答文例ノ通タルヘキ事
第二條 訴答文例中原告人ヘ取ルヘキ被告人住所書附並此書附ヲ得ル爲メ(町村)役場ノ交通ハ第九條中第五項ノ郵紙ヲ用フヘキ事
第三條 訴訟中其事ニ關シ證據ニ爲サントスル原被告人互ノ交通モ第五項ノ郵紙ヲ用フヘシ若シ此郵紙ヲ用ヒサル者ハ裁判上證據タルノ効ナキモノトスヘキ事

第四條 人民ヨリ官府ニ關涉スル訴訟ニ付キ官府ヨリ裁判官ニ差出ス書面モ同ク此規則ニ照
○印紙界紙規則○訴訟用郵紙規則

戊四十一

シ野紙ヲ用フヘキ事

第五條 以上ニ掲クシ野紙ヲ用ヒサシ書面ハ裁判官受理セサル事

第六條 裁判官ヨリ原被告人或ハ引合人等呼出狀ハ都テ第五項ノ野紙ヲ用フヘキ事

第七條 訴訟用野紙ハ買求メ差支無之標各府縣管下適宜ノ場所へ賣捌所相設クヘキ事

第八條 賣捌所ハ訴訟用野紙賣捌所ト大書シ官ノ焼印アル看板ヲ掲クヘキ事

第九條 訴訟用野紙用方並ニ種類定價左ノ通

第一項 金穀ノ類

金十圓

定價一枚

米五石

未滿

黃色野紙

金一錢

雜穀十石

但シ一枚十六行一行十五字詰以下皆同

金十圓以上百圓

同

米五十石以上五十石

未滿

黃綠色野紙

金二錢

雜穀十石以上百石

金百圓以上五百圓

同

米五十石以上二百五十石 未滿

橙黃色野紙

金三錢

雜穀百石以上五百石

金五百圓以上千圓

同

米二百五十石以上五百石 未滿

綠色野紙

金四錢

雜穀五百以上千石

金千圓

同

米五百石

以上

黑色野紙

金五錢

雜穀千石

第二項 人事ノ類(但密替相續養子雇人等ノトニ關スル訴訟ヲ云フ)

定價一枚

青色野紙

金一錢六厘

第三項 土地并建物ノ類(但地所境界田畑建築等ノ訴訟ヲ云フ)

定價一枚

紫色野紙

金一錢四厘

第四項 雜事ノ類(但以上三項ニ關セサル一切ノ訴訟ヲ云フ)

同

○印紙界紙規則○訴訟用野紙規則

第五項 文通ノ類(但裁判所ノ原被告人等呼出狀其外町村役場及原被告人ノ文通)

紅色罽紙

金一錢二厘

同

赭色罽紙

金五厘

第十條 裁許狀罽紙ノ種類定價左ノ通

第一項 金銀ノ類

金十圓

定價一枚

米五石

未滿

黃色罽紙

金二錢

雜穀十石

但一枚十二行一行十二字詰以下皆同

金十圓以上百圓

同

米五石以上五十石

未滿

黃綠色罽紙

金三錢

雜穀十石以上百石

金百圓以上五百圓

同

米五十石以上二百五十石

未滿

橙黃色罽紙

金四錢

雜穀百石以上五百石

金五百圓以上千圓

同

米二百五十石以上五百石 未滿

綠色罽紙

金五錢

雜穀五百石以上千石

金千圓

同

米五百石

以上

黑色罽紙

金六錢

雜穀千石

第二項 人事ノ類

定價一枚

第三項 土地并建物ノ類

青色罽紙

金三錢二厘

第四項 雜事ノ類

紫色罽紙

定價一枚

紅色罽紙

金二錢八厘

同

同

金二錢四厘

○印紙界紙規則 ○訴訟用罽紙規則

第十一條 裁許狀ハ其類ニ照シ此紙ヲ用フヘキ事

第十二條 訴訟中裁判所ヨリ原被告人等呼出ニ用フル紙紙員數ノ定價及ヒ原被告人ヘ下付スル裁許狀紙員數ノ定價ハ曲者ヨリ三日内ニ裁判廳ヘ辨納スヘキ事

第十三條 官許賣捌所ノ外ニテ訴訟中紙紙販賣スル者ハ其品取上ケ販賣セタル紙紙代ノ百倍又其情ヲ知テ之ヲ買フ者ハ其品取上ケ買受ケタル紙紙代ノ五十倍過料可申付事

第十四條 紙紙ヲ價造スル者又ハ價造セシ品ト知テ之ヲ買買スル者ハ都テ其品取上ケ九十圓以内ノ過料可申付事

第十五條 前條ニ掲クル犯則人ヲ見認メ訴出ル者ハ事實取糺シ相違ナキニ於テハ賞トシテ其過料ノ半高下ケ與フヘキ事

○明治十五年六月廿七日第三十二号布告

日本銀行條例

第一條 日本銀行ハ有限責任トシ本行ノ負債辨償ノ爲メ株主ハ負擔スヘキ義務ハ株金ニ止マ

ルモノトス

第二條 日本銀行ハ本店ヲ東京ニ置クヘシ各府縣ノ首邑其他要用ナル地方ニ支店出張所ヲ設置シ又ハ他ノ銀行ト「コレレスボンデンス」ヲ締約スルコトヲ得但シ支店出張所ヲ設置シ又ハ他ノ銀行ト「コレレスボンデンス」ヲ締約スルハ其事由ヲ大藏卿ニ具狀シテ其許可ヲ受クヘシ又大藏卿ニ於テ支店出張所ヲ要用ナリトスルハ銀行ノ命シテ之ヲ設置セシムルコトヲ得

第三條 日本銀行ノ營業年限ハ開業ノ日ヨリ滿三年トス但株主總會ノ決議ニ依リ營業ノ延期ヲ請願スルコトヲ得

第四條 日本銀行ノ資本金ハ壹千萬圓ト定メ之ヲ五萬圓ニ分テ一様貳百圓トス但株主總會ノ決議ニ依リ資本金ノ増加ヲ請願スルコトヲ得

第五條 日本銀行ノ株券ハ總テ記名券トナシ日本人ノ外賣買讓與スルヲ許サス

第六條 日本銀行ノ株主トナラントスルモノハ大藏卿ノ許可ヲ受クヘシ

第七條 資本金總額五分ノ一即チ二百萬圓ノ入金アルハ營業ヲ開始スルヲ得ヘシ但シ資本金募集ノ手續ハ定款ヲ以テ定ムルモノトス

第八條 營業上ニ於テ損失ヲ生シ資本現入金額ノ内幾分ヲ減少シタルハ其事由ヲ審明シ資本入金殘額ヨリ其欠額ニ充ルマテノ金額ヲ追募スヘシ

第九條 事業ノ伸張ニ由リ資本入金ノ増加ヲ要スルハ之ヲ資本入金殘額ヨリ追募スヘシ

第十條 純益金總額ヨリ株主割賦金ヲ引去リ其殘額ヨリ少クモ十分ノ一ヲ左ノ目的ヲ以テ積立金ト爲スヘシ

第一 資本金ノ損失ヲ補フ

第二 割賦金ノ不足ヲ補フ

第十一條 日本銀行ノ營業ハ左ノ如シ

第一 政府發行ノ手形爲換手形其他商業手形等ノ割引ヲ爲シ又ハ買入ヲ爲ス事

第二 地金銀ノ賣買ヲ爲ス事

○銀行○日本銀行條例

第三 金銀貨或ハ地金銀ヲ抵當トシテ貸金ヲ爲ス事

第四 豫テ取引約定アル諸會社銀行又ハ商人ノ爲メニ手形金ノ取立ヲ爲ス事

第五 諸預リ勘定ヲ爲シ又ハ金銀貨貴金屬并諸証券類ノ保護預リヲ爲ス事

第六 公債証券政府發行ノ手形其他政府ノ保証ニ係ル各種ノ証券ヲ抵當トシテ當座勘定貸

又ハ定期貸ヲ爲ス事但シ其金額及ヒ利子ノ割合ハ總裁副總裁理事監事ニ於テ時々決

議シ大藏卿ノ許可ヲ受クヘシ

第十二條 日本銀行ハ第十一條ニ記載スル事業ノ外ニ左ニ掲クル條件ハ勿論其他諸般ノ營業

ニ關涉スルコトヲ得ス

第一 不動産及ヒ銀行又ハ諸會社ノ株券ヲ抵當トシテ貸金ヲ爲ス事

第二 本銀行ノ株券ニ對シテ貸金ヲ爲シ又ハ此株券ノ買戻ヲ爲ス事

第三 諸工業會社ノ株主タルハ勿論直接間接ヲ問ハス工業ニ關係スル事

第四 本支店出張所ヲ開設スル爲メ必要ナル者ノ外一切他ノ不動産ノ所有主タル事

第十三條 政府ノ都合ニ因リ日本銀行ヲシテ國庫金ノ取扱ヒニ從事セシムヘシ

第十四條 日本銀行ハ兌換銀行券ヲ發行スルノ權ヲ有ス但シ此銀行券ヲ發行セシムルハ別

段ノ規則ヲ制定シ更ニ頒布スルモノトス

第十五條 日本銀行ハ諸手形及ヒ切手ヲ發行スルヲ得ヘシ

第十六條 日本銀行ハ公債証券ヲ買入又ハ之ヲ賣拂フコトヲ得ヘシ但シ此ノ場合ニ於テハ大藏

卿ノ許可ヲ受クヘキモノトス

第十七條 日本銀行ハ總裁一人副總裁一人理事四人ヲ以テ總理スルモノトス此外ニ監事三人

兼任スルモノトス

第十八條 總裁副總裁ハ任期五ヶ年トシ總裁ハ勅任副總裁ハ奏任トス但任期中ハ他ノ官職ヲ

兼任スルコトヲ得ス

第十九條 理事ハ株主總會ニ於テ撰舉シ大藏卿ノ命スル者トス但創立第一回ハ五ヶ年ノ任期

ヲ以テ大藏卿之ヲ特命スヘシ監事ハ株主總會ニ於テ之ヲ撰舉シ理事監事ノ任期ハ定款ヲ以

テ定ム

第二十條 理事監事ハ任期中他ノ銀行又ハ會社等ノ役員タルヲ辭サス

第二十一條 大藏卿ハ特ニ監理官ヲ日本銀行ニ派出シテ諸般ノ事務ヲ監視セシムヘシ

第二十二條 日本銀行ハ本支店出張所及ヒ約定店等ノ營業上百般ノ景況ヲ調査シ少クモ毎月

一回之ヲ大藏卿ヘ報告スヘシ

第二十三條 日本銀行ハ本條例ノ旨趣ニ基キ銀行定款ヲ作り政府ノ許可ヲ受クヘシ但シ定款

ヲ改正シ又ハ定款外ノ事件ヲ處スルキハ株主總會ニ於テ決議シ政府ノ許可ヲ受クヘシ

第二十四條 政府ハ日本銀行諸般ノ業務ヲ監督シ其營業上條例定款ニ背戻スルコトハ勿論政府

ニ於テ不利ト認ムル事件ハ之ヲ制止スヘシ

第二十五條 此條例ヲ改正増削スルハ其施行ノ日ヨリ三ヶ月以前ニ之ヲ布告スヘシ

○明治十五年十二月十一日第五十七號布告

爲替手形約束手形條例

○銀行○手形爲替約束手形條例

第一章 爲替手形

第一節 爲替手形ノ性質及ヒ法式

第一條 爲替手形ハ振出人ヨリ支拂人ニ當テ記載ノ金額ヲ受取人又ハ其所有權ヲ受ケタル人ニ拂渡サシムル證券ヲ謂フ

第二條 爲替手形ニハ左ノ件々ヲ記載シ振出人記名調印ス可シ

一 金額

二 振出ノ年月日及ヒ場所

三 支拂ノ期限及ヒ場所

四 支拂人ノ氏名

五 受取人ノ氏名

六 受取人又ハ其所有權ヲ受ケタル人ニ支拂フ可キ旨

第三條 爲替手形ハ一ノ爲替ニ付キ同文ノ手形ニ通又ハ三通ヲ振出スヲ得此場合ニ於テハ各通ニ番號ヲ附シ内一通ニ對シ支拂ヲ爲シタル時ハ他ノ各通ハ無効タル可キヲ記載ス可シ

第四條 爲替手形ノ金額ハ五圓以上ニ限ル者トス

第二節 支拂期限

第五條 爲替手形ノ支拂期限ハ左ノ如ク區別ス

一 一覽拂

二 定期拂

三 一覽後定期拂

第六條 一覽拂ノ手形ハ其呈示ヲ受ケタル時直ニ仕拂フ可キ者トス

第七條 定期拂ノ手形ハ手形ニ定メタル期日ニ支拂フ可キ者トス

第八條 一覽後定期拂ノ手形ハ一覽濟ノ日ヨリ其日數ヲ起算シ手形ニ定メタル期日ニ支拂可キ者トス

第九條 一覽拂ノ手形及ヒ一覽後定期拂ノ手形ハ振出ノ日附ヨリ三ヶ月以内ニ之ヲ呈示ス可シ

第十條 定期拂ノ期限ハ振出ノ日附ヨリ一覽後定期拂ノ期限ハ一覽濟ノ日ヨリ六ヶ月以内ト爲ス

第三節 爲替資金

第十一條 振出人ハ支拂人ニ對シ爲替資金ヲ交付スルノ義務アル者トス

第十二條 振出人ヨリ支拂人ニ對シ貸方計算アル時ハ之ヲ以テ爲替資金ニ供用スルヲ得

第四節 裏書

第十三條 爲替手形ハ裏書ヲ以テ其所有權ヲ移轉スルヲ得

第十四條 裏書ニハ買受人又ハ讓受人ノ氏名及ヒ年月日ヲ記載シ賣渡人又ハ讓渡人氏名住所ヲ記シ調印ス可シ

第十五條 裏書人ハ振出人及ヒ自己以前ノ裏書人ト共ニ自己以後ノ裏書人及ヒ手形所持人ニ

○銀行○爲替手形約束手形條例

對シ相連帶シテ償還ノ責任ヲ負フ者トス
第十六條 手形ノ裏面ニ餘白ナキ時ハ補箋ヲ爲シ裏書ヲ爲スヲ得

第五節 保証

第十七條 振出人裏書人及ヒ支拂人ハ他人ヲシテ手形ノ支拂ヲ保証セシムルヲ得
保証人ハ其保証ノ旨ヲ手形又ハ別紙ニ記載ス可シ

第十八條 振出人裏書人ノ保証人ハ本人義務ヲ欠ケタル場合ニ於テ本人ニ代リ他ノ義務者ト相連帶シテ償還ノ責任ヲ負フ者トス
第十九條 保証人支拂ヲ爲シタル時ハ本人ニ代リ其權利ヲ有スル者トス

第六節 引受

第二十條 定期拂手形及ヒ一覽後定期拂手形ノ所持人ハ支拂人ニ其引受ヲ求ムルヲ得

第二十一條 支拂人手形ノ支拂ヲ引受ケタル時ハ其旨及ヒ年月日ヲ手形ニ記載シ記名調印ス可シ
第二十二條 支拂人手形ノ支拂ヲ引受ケタル時ハ振出人身代限ノ處分ヲ受ケタル場合ト雖モ其取消ヲ爲スヲ得ス

第二十三條 支拂人手形ノ支拂ヲ引受ケタル時ハ所持人ハ引受ノ拒ミ證書ヲ受ク可シ
第二十四條 所持人拒ミ證書受ケタル時ハ其旨ヲ電信書留郵便其他證據トナル可キ手續ヲ以テ振出人又ハ裏書人ニ通知シテ爲替金額及ヒ諸費用ニ相當スル抵當又ハ保証人ヲ以テ保証ヲ立テシムルヲ得

通知ヲ受ケタル裏書人ハ振出人又ハ自己以前ノ裏書人ニ對シ所持人同一ノ處置ヲ爲スヲ得

第二十五條 振出人又ハ裏書人ノ内既ニ相當ノ保証ヲ立タル者アル時ハ其以後ノ裏書人ハ保証ヲ立ルノ義務ヲ免ル者トス

第七節 支拂

第二十六條 手形ニ貨幣ノ種類ヲ記シタル時ハ其貨幣ヲ以テ支拂フ可シ

第二十七條 手形所持人ハ支拂期限ニ於テ其支拂ヲ請求ス可シ若シ定式ノ祝日或ハ慣習ノ休業日ニ當ル時ハ其翌日之ヲ請求ス可シ

第二十八條 手形所持人支拂金ヲ受取ル時ハ手形ニ領收ノ旨ヲ記載シ記名調印シテ金額ト引換ヘ支拂人ニ交付ス可シ

第二十九條 一ノ爲替ニ付キ手形數通アル時ハ支拂人ハ其引受ヲ記載シタル手形ニ對シ支拂ヲ爲ス可シ

第三十條 支拂人期限ニ至リ手形ノ支拂ヲ爲セ、ル時ハ手形所持人ハ支拂ノ拒ミ證書ヲ受ク可シ

第三十一條 支拂ノ拒ミ證書ヲ受ケタル者ハ其旨ヲ電信書留郵便其他證據トナル可キ手續ヲ以テ振出人及ヒ各裏書人ニ通知ス可シ

第八節 拒ミ證書

第三十二條 支拂人手形ノ引受又ハ支拂ヲ拒ム時ハ手形ニ附箋ヲ爲シ其旨及ヒ年月日ヲ記載

○銀行○手形爲替約束手形條例

シ記名調印ス可シ之ヲ拒ミ証書ト爲ス

第三十三條 支拂人拒ミ証書ヲ作ルコト肯ヒス又ハ其住所分明ナラス又ハ不在ニテ代理人ナ

キ時ハ所持人自ラ其始末ヲ記シ記名調印シテ郡區役所若クハ戶長役場ノ証印ヲ受ケ拒ミ証

書ニ代用ス可シ
第三十四條 支拂人身代限ノ處分ヲ受ケタル場合ニ於テハ支拂期限前ト雖モ手形所持人ハ拒

ミ証書ヲ受ケルコト得
第九節 償還ノ要求
第三十五條 手形所持人支拂ノ拒ミ証書ヲ受ケタル時ハ其日附ヨリ十五日以内ニ振出人裏書

人ノ中一人若クハ數人ニ對シ爲替手形ノ金額期限後ノ利子及ヒ拒ミ証書并ニ通知ノ費用ノ

償還ヲ要求スルコト得
第三十六條 第三十五條ノ要求ニ對シ償還ヲ爲シタル裏書人ハ其日ヨリ十五日以内ニ自己以

前ノ裏書人又ハ振出人ノ中一人若クハ數人ニ對シ自己ノ償還シタル金額及ヒ其利子ヲ要求

スルコト得
第三十七條 振出人ハ爲替資金ヲ支拂人ニ交付シタルノ故ヲ以テ償還ノ要求ヲ拒ムコト得ス

第三十八條 要求ヲ受ケタル者ハ拒ミ証書ヲ附シタル爲替手形及ヒ証據ヲ添ヘタル計算書ト

引換ニ非レハ償還ヲ爲スニ及ハス
第三十九條 第九條ノ呈示期限第二十七條ノ支拂請求期限及ヒ第三十五條第三十六條ノ要求

期限ヲ怠リタル者ハ裏書人及ヒ爲替資金ヲ交付シタル振出人ニ對シ要求ノ權利ヲ失フ者ト

ス但引受ヲ爲シ若クハ爲替資金ヲ受ケタル支拂人又ハ資金ヲ交付セサル振出人ニ對シ第九
條第二十七條ノ期限ニ係ル者ハ振出ノ日附ヨリ起算シ第三十五條第三十六條ノ期限ニ係ル
者ハ拒ミ証書ノ日附ヨリ起算シテ三ヶ年間償還ヲ要求スルコト得

第十節 紛失

第四十條 手形所持人手形ヲ紛失シタル時ハ直ニ新聞紙其他ノ方法ヲ以テ其手形ノ流通ヲ止

ムル旨ヲ廣告シ又電信書留郵便其他証據トナル可キ手續ヲ以テ支拂人ニ通知シ其支拂ヲ止

メシム可シ
第四十一條 手形紛失人ハ振出人ニ紛失ノ旨ヲ証シ代手形ヲ請受ケ各裏書人ヲシテ再ヒ之ヲ

裏書セシメ更ニ其手形ヲ流通スルコト得但振出人ハ手形紛失人ヲシテ保証ヲ立テシムルコ

ト得
第四十二條 手形紛失人代手形ヲ受ケ得サル時ハ支拂期限ニ至リ支拂人ニ對シ真正ノ所持人

タル旨ヲ證明シ支拂ヲ請求スルコト得但支拂人ハ手形紛失人ヲシテ保証ヲ立テシムルコト

第二章 約束手形

第四十三條 約束手形ハ振出人記載ノ金額ヲ受取人又ハ其所有權ヲ受ケタル人ニ自ラ支拂フ

可キ旨ヲ約束シタル証券ヲ謂フ
第四十四條 約束手形ハ定期拂ニシテ金額ハ貳拾五圓以上ニ限ル者トス

第四十五條 爲替手形ニ付キ定メタル規則ハ第三節第六節其他約束手形ノ性質ニ反スル條目

○銀行○爲替手形約束手形條例

ヲ除クノ外之ヲ約束手形ニ適用ス可シ

第三章 通則

第四十六條 第三十五條第三十六條ノ要求期限ハ路程ニ要スル日數八里毎ニ一日ノ猶豫ヲ與
フルモノトス

第三十五條第三十六條ノ要求期限及ヒ第九條呈示ノ期限外國ト關係スルモノハ其路程ニ要
スル相當日數ノ猶豫ヲ與フルモノトス

第四十七條 第一節第四節及ヒ第四十三條第四十四條ノ規程ニ合セサル手形ハ裏書ヲ以テ所
有權ヲ移轉スルコトヲ得ス

○明治八年二月七日第二十號布告

外國形日本船輸出入稅未納內外貨物廻漕規則

第一條 日本郵船會社其他日本船ニテ日本沿海廻漕免許ヲ得タル外國形船舶ニ限リ自今國內
各開港場間ニ輸入稅未納ノ外國貨物並ニ貨主外國人ニテ輸出稅未納ノ內國貨物廻漕差許候
就テハ從來內外交涉密賣買ノ儀ハ嚴禁ノ處尙ホ右ニ類スル所業有之候テハ不相濟儀ニ付廻
漕規則ヲ設クルト左ノ如シ

第二條 凡ソ外國形ノ日本船舶ハ都テ出入港手續並ニ諸貨物船積卸共各開港場ニ於テハ稅
關ノ所轄トス

第三條 前條ノ船滯港中ハ稅關ヨリ監吏乘勤スヘシ

第四條 前條ノ船貨物ヲ船積シ或ハ船卸スルハ日出ヨリ日沒マテニ限ルヘシ若シ夜中竊ニ貨
物ヲ積卸スルハ其現品ヲ沒收シ且其品價同額ノ罰金ヲ其船長或ハ其會社ニ課スヘシ

但シ日沒ヨリ日出マテハ船中ノ船口ヲ固封シ置クヘシ若シ勝手ニ開封スルハ其船長或
ハ其會社ニ金六十圓ノ罰金ヲ課スヘシ

第五條 甲港ヨリ乙港ニ廻漕スル前條ノ船ニ未納稅內外貨物ヲ積入レ乙港ニ輸送セント欲ス
ルハ其貨主或ハ其引受人ヨリ差出書(各稅關ニ用フル積送差出書式)ニ貨物ノ品種箇數記
號番號元價等詳細相認メ積送ノ儀稅關ニ願出貨物檢査消ノ上積送免狀ヲ受ケ積入ルヘシ若
シ此手續ヲ經スシテ積入ルハ其現品ヲ沒收ス故ニ其船長或ハ會社タル者ハ必ス右免狀
ヲ點視シ之レニ照ラシテ其品ヲ積入ルヘシ若シ無免狀ノ貨物ヲ船積セハ事ノ成否ヲ問ハス

○外國形日本船輸出入稅未納內外貨物廻漕規則

其會社或ハ其船長ハ其品價同額ノ罰金ヲ課スヘシ

第六條 甲港ニ碇泊スル外國船ヨリ都合ニヨリ直チニ貨物ヲ船移シ乙港ニ積送ラント欲スル
ルハ其貨主或ハ其引受人ヨリ船積廻滞ノ差出書(各稅關ニ用フル船移書式)ニ貨物ノ品種箇
數記號番號等詳細相認メ船移ノ儀稅關ヘ願出右免狀ヲ受ケ船移スヘキ儀ナレハ其船長或ハ
會社タル者ハ右免狀ヲ點視シ之レニ照テテ其品ヲ船移スヘシ若シ無免狀又ハ免狀外ノ貨
物ヲ船移スルルハ其現品ヲ沒收シ且ツ其品價同額ノ罰金ヲ其船長或ハ其會社ニ課スヘシ
第七條 前條ノ船船ヨリ輸出稅未納內國貨物ヲ外國船ヘ積移スルトテ許サス若シ密ニ之ヲ船
移シ又ハ船移セント謀ラハ事ノ成否ヲ問ハス其貨物ヲ沒收シ且其會社或ハ其船長ニ其品價
同額ノ罰金ヲ課スヘシ

第八條 前條ノ船貨物積入レ甲港ヲ出港セント欲スルルハ其船長或ハ其會社ヨリ第一號ノ如
ク積送貨物ノ總目錄二枚(一枚ハ甲港稅關ヘ置キ一枚ハ乙港稅關ヘ送達ス)ヲ認メ稅關ヘ差
出シ出港免狀ヲ受ケ出港スヘシ若シ此手數ヲ經スレテ出港スルルハ總目錄ニ記載スヘキ品
價同額ノ罰金トシテ其船長或ハ其會社ニ課スヘシ

但シ汽船ハ出港前一時帆船ハ出港前二十四時ヲ隔テ、此手數ヲ爲スヘシ
第九條 前條ノ船甲港ヨリ乙港ニ通港中風順ニヨリ不開港場ヘ入津スルルハ輸入稅未納ノ外國
貨物或ハ貨主外國人ニシテ內國品ヲ船卸スヘカラス若シ船卸スルルハ密商スルト否トヲ問
ハス其現品ヲ沒收シ且其品價同額及ヒ金一千圓ノ罰金ヲ其船長或ハ其會社ニ課スヘシ

第十條 前條ノ船乙港ニ入港スルル其稅關ヘ第二號書式ノ如ク未納稅内外貨物ノ輸入總目錄一

通テ差出スヘシ尤モ此手數ハ入港下碇後休日ヲ除キ四十八時間ニ爲スヘシ此時間ニ過ルル
ハ一日毎ニ金六十圓ノ罰金ヲ課スヘシ

第十一條 前條ノ輸入貨物總目錄中若シ誤脱アルヲ覺知セハ休日ヲ除キ二十四時間ニ更正ス
ルヲ得ヘシ若シ此期限ヲ過キ更正スルルハ金十五圓ノ罰金ヲ課スヘシ

第十二條 前條ノ輸入貨物總目錄ヲ甲港ヨリ乙ニ廻達アリシ積送貨物總目錄ニ照會シ過不足
アルルハ其事由ヲ註明シ條理判然セサレハ不足ノ貨物ハ甲乙兩港間ニ於テ密商セシ者ト看
做シ其品物同價ノ金額并ニ金一千圓ノ罰金ヲ其船長或ハ其會社ニ課スヘシ若シ貨物過ナル
ルハ其現品ヲ沒收シ且其品價同額ノ罰金トシテ其船長或ハ其會社ニ課スヘシ

第十三條 前條ノ船入港手數ノ上未納稅内外貨物ヲ陸揚スルルハ其貨主或ハ其引受人ヨリ差
出書(各稅關ニ用フル輸入書式)ニ貨物ノ品種箇數記號番號元價等詳細相認メ陸揚ノ儀稅關
ヘ願出貨物檢査濟ノ上陸揚免狀ヲ受ケ陸揚スヘシ若シ無免狀或ハ免狀外ノ貨物ヲ船卸セハ
事ノ成否ヲ問ハス其貨物ヲ沒收ス故ニ其船長或會社タルモノハ右免狀ヲ點視シ之ニ照シテ
其品ヲ船卸スヘシ若シ無免狀或ハ免狀外ノ貨物ヲ船卸シ若シハ船卸セント謀ラハ事ノ成否
ヲ問ハス其會社或ハ其船長ヘ其品價同額ノ罰金ヲ課スヘシ

但外國貨物ハ輸入稅上納ノ上陸揚免狀ヲ受ケ陸揚スヘシ
第十四條 前條ノ船舶便利ニ依リ此規則ニ關係スル貨物ヲ互ニ船移スルルハ稅關ヘ願出免狀
ヲ受クヘシ若シ無免狀又ハ免狀外ノ貨物ヲ船移スルルハ其現品ヲ沒收シ且ツ其品價同額ヲ
罰金トシテ双方ノ船長或ハ双方ノ會社ニ課スヘシ

○外國形日本船輸出入稅未納内外貨物廻漕規則

第十五條 各港税關ハ祝日祭日及ヒ日曜日ヲ除クノ外毎日午前十時ニ開キ午後四時ニ閉スヘシ故ニ此規則ニ揭示シタル特限ト税關ノ開閉時限トヲ計リ以テ其期限ヲ愆ルヘカラス

第十六條 此他會社或ハ船長ナル者貨主又ハ代人ニ與スルト否トヲ問ハズ故テニ税金ヲ脱セシト謀リ若シハ其他諸般ノ方畧ヲ以テ脱税ヲ謀ル者アレハ金一千圓ヨリ多カラサル罰金ヲ課スヘシ若シ其事過失ニ出テ犯則ニ涉ル者アレハ此規則ニ照ラレテ罰スヘシ

第十七條 總テ事犯則ニ涉ル者其二犯俱發スル者ヘ重キニ就テ處分スヘシ

第十八條 若シ此ノ規則ヲ變更スルコトアレハ一月前之レヲ布告スヘシ

明治十六年十二月
全 十七年一月

出版御届
刻成

編輯兼
出版人

愛媛縣士族
福 富 恭 禮

大坂府下北區中之島
五丁目三十三番地

發 兌

玉井新次郎
愛媛縣伊豫國温泉郡
湊町四丁目

定價金六拾五錢

EX 3D16

全 年 公 報
第 十 六 卷 第 三 號

第 十 六 卷 第 三 號

出 版 社

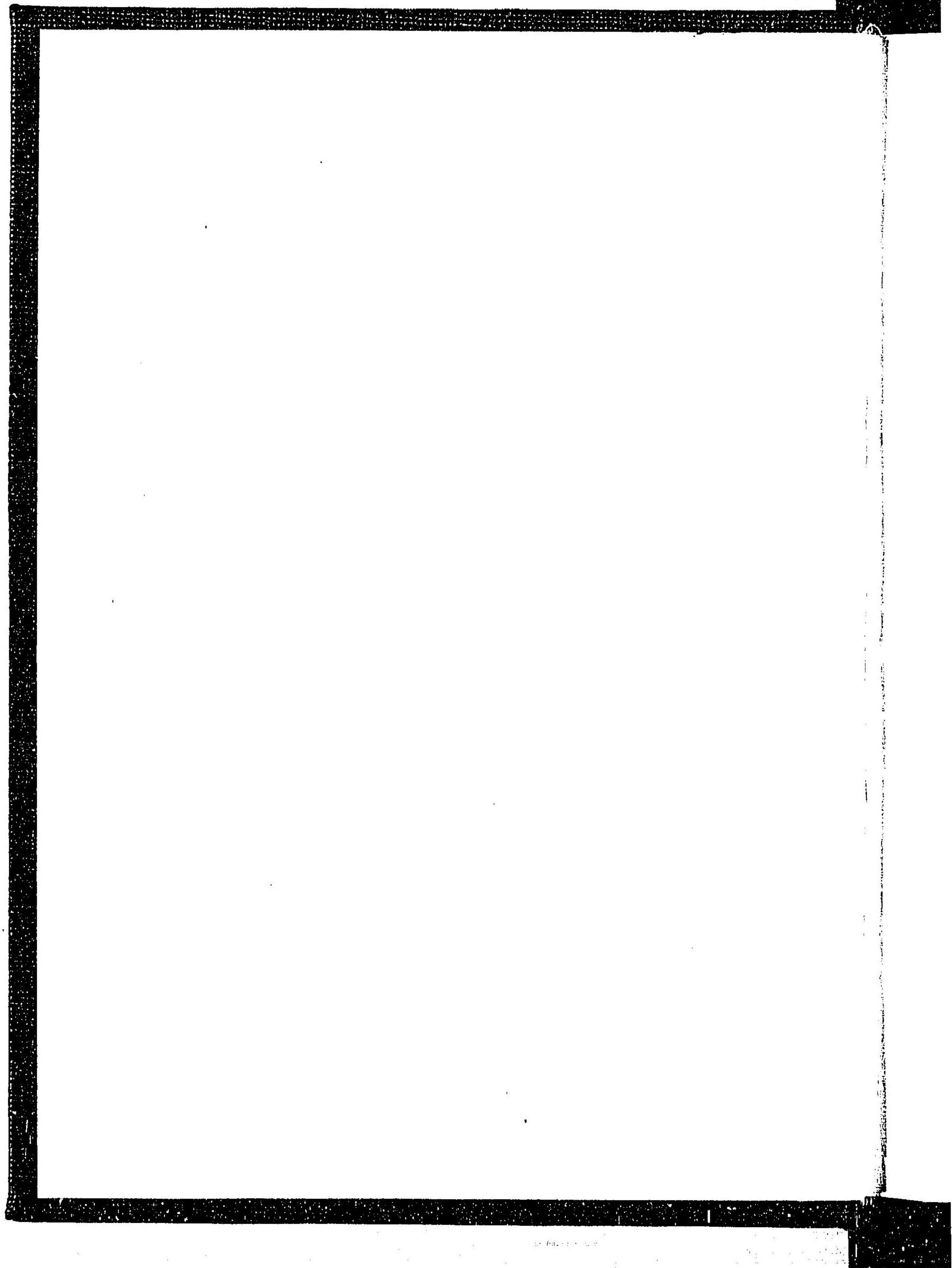
發 行 所

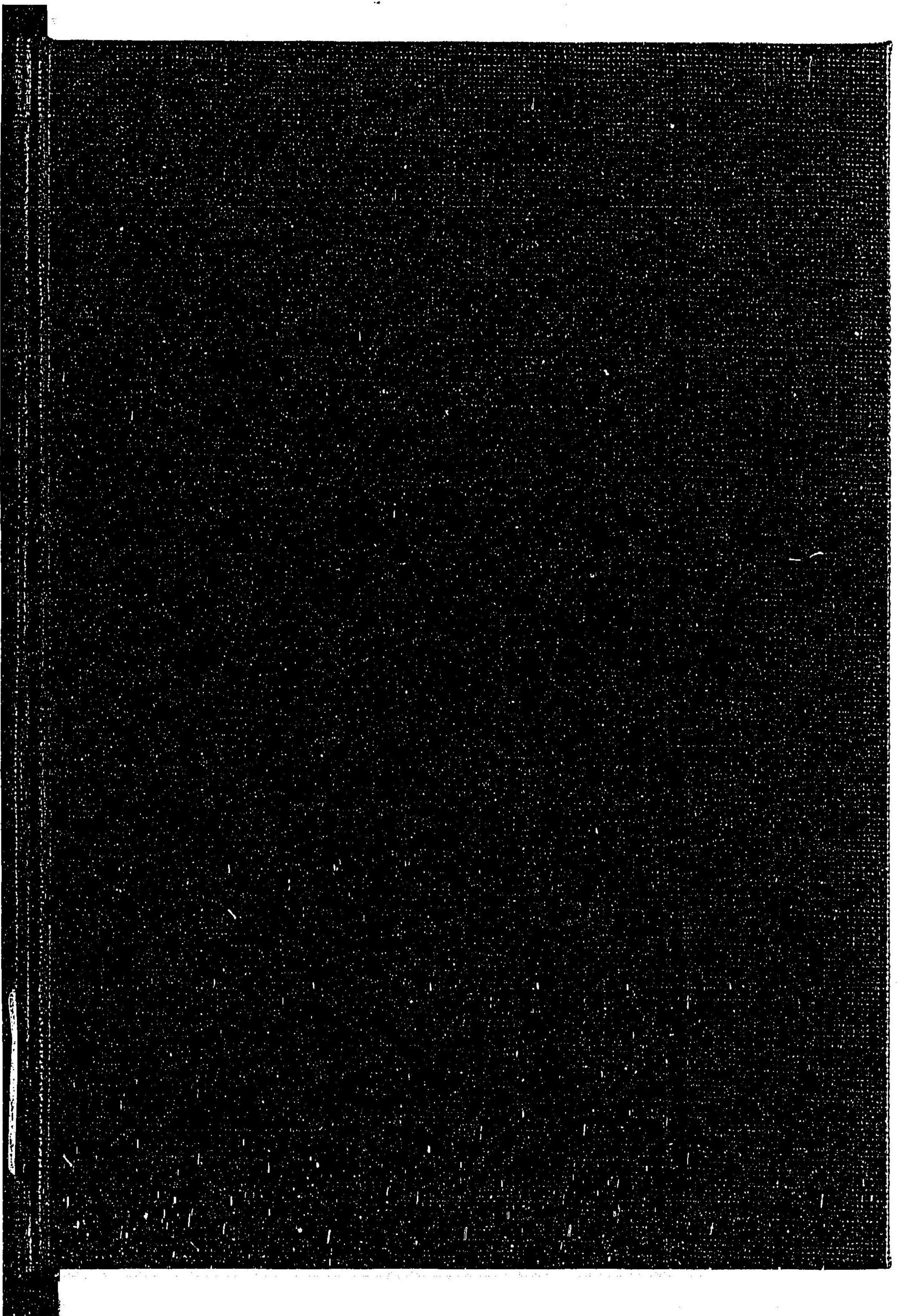
第 十 六 卷 第 三 號
第 十 六 卷 第 三 號
第 十 六 卷 第 三 號

第 十 六 卷 第 三 號

第 十 六 卷 第 三 號

第 十 六 卷 第 三 號





禁電子式複写

030951-001-4

CZ-5-0145

現行法立規則類全

福富 恭礼/編

M17, 18

BBC-0307



